

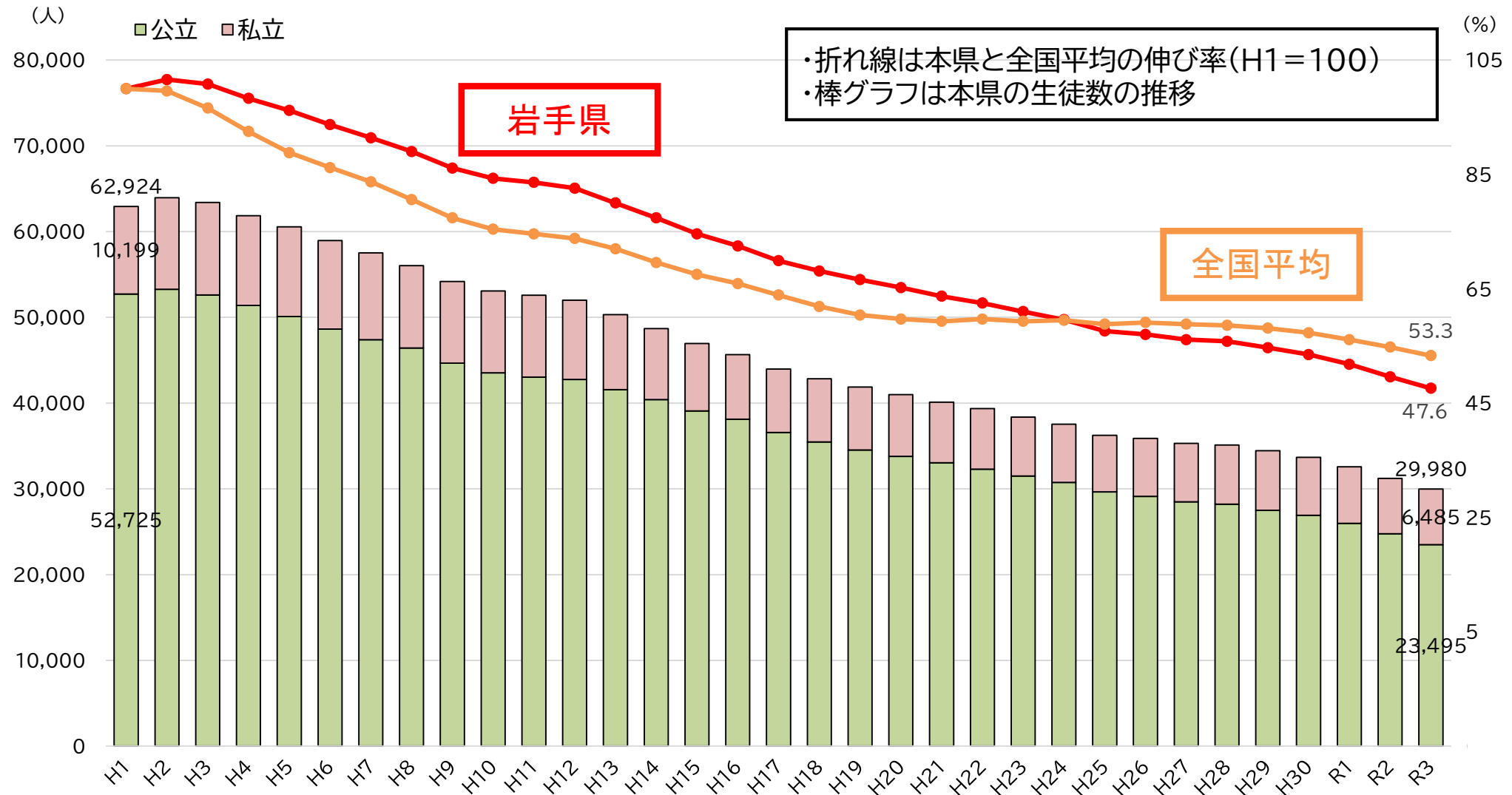
資料3 生徒数及び学校数等の推移

岩手県総務部

【高等学校】生徒数の推移

○本県の生徒数は、令和3年において、29,980人となっており、平成元年度(H1:62,924人)と比較して半分以下まで減少している。

○減少率(H1比)を本県と全国平均で比較すると、H2~H23までは本県の方が減少率が低かったが、その後は逆転し、本県の減少率の方が高くなっている。(R3 全国:53.3、岩手県:47.6)

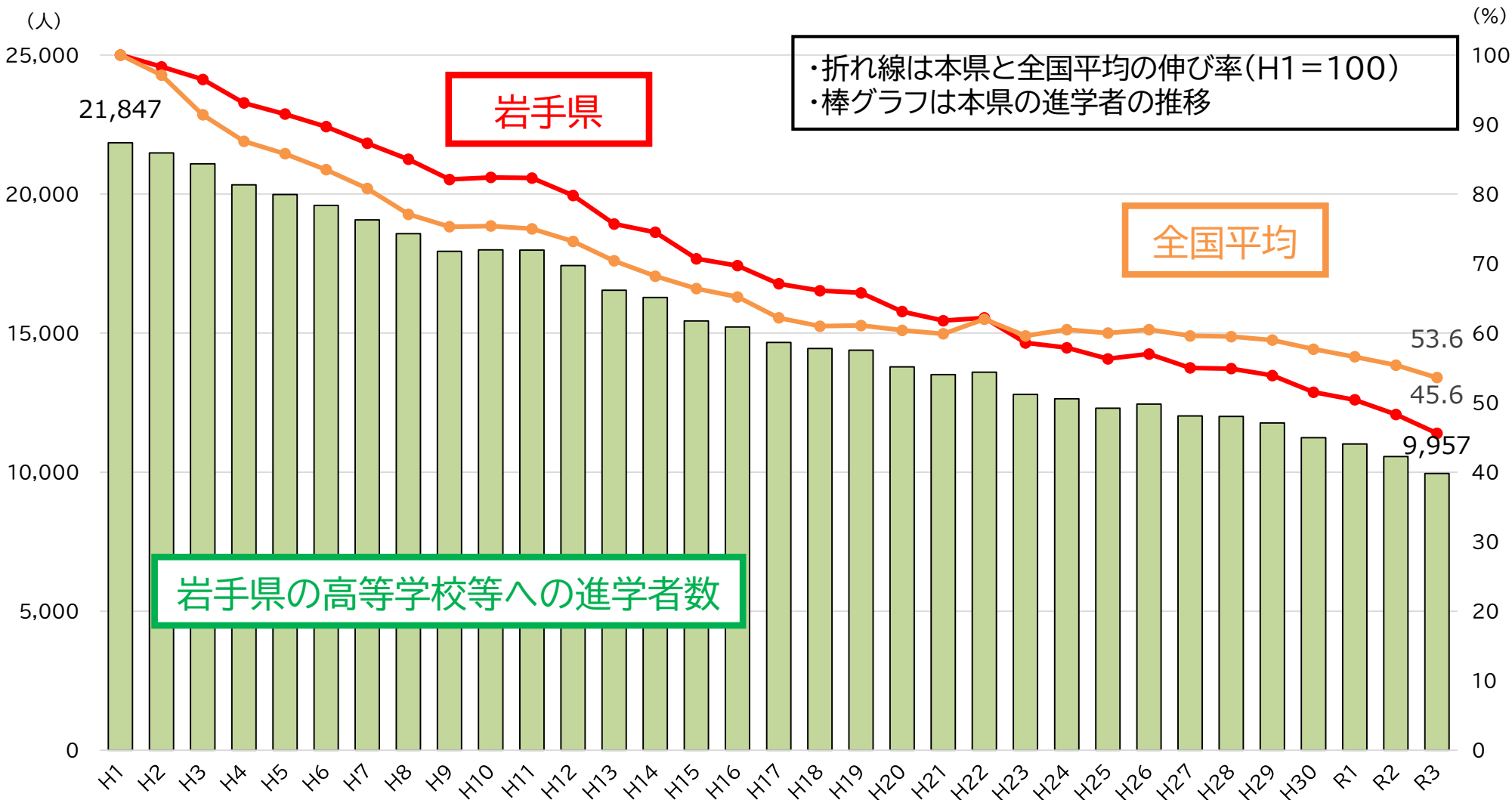


・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

高等学校等への進学者の推移

○本県の高等学校等進学者数は、令和3年には9,957人となっており、平成元年度(H1:21,847人)と比較して半分以下まで減少している。

○減少率(H1比)を本県と全国平均で比較すると、H2～H22までは本県の方が減少率は低かったが、その後は逆転し、本県の減少率の方が高くなっている。(R3 全国:53.6、岩手県:45.6)



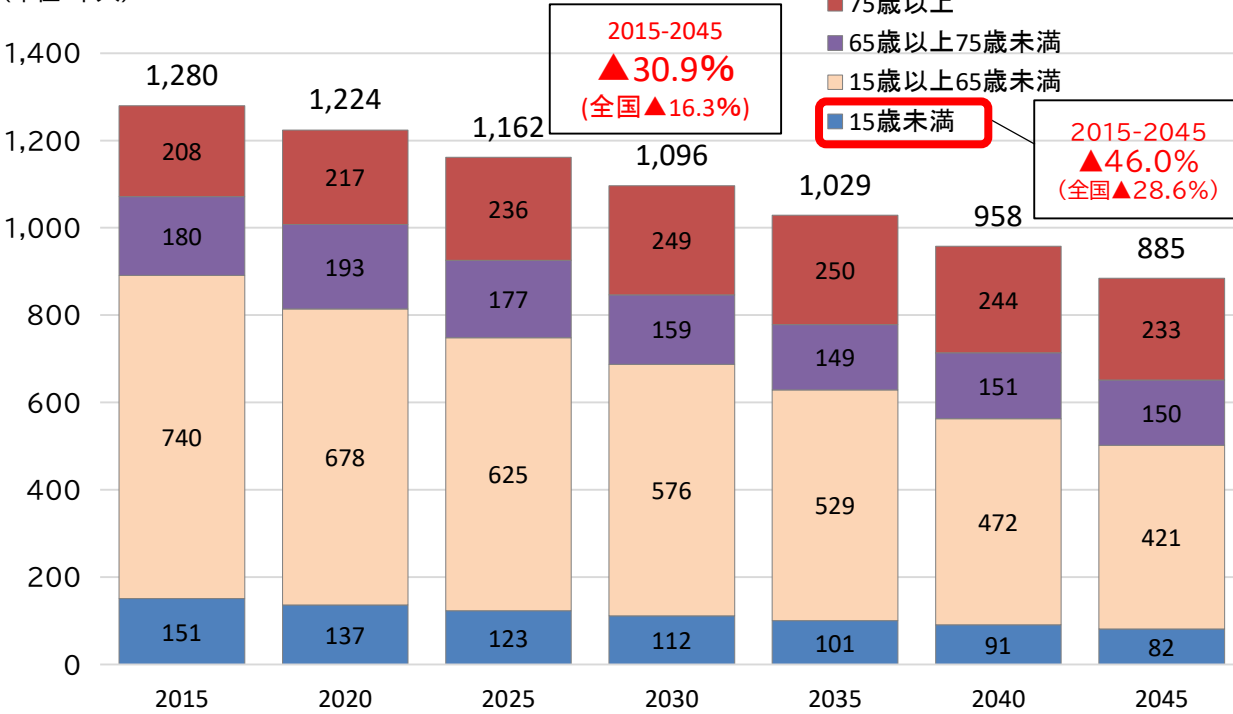
岩手県高等学校等への進学者数

今後の人口の変化① (ブロック別・年齢区分別 人口推計)

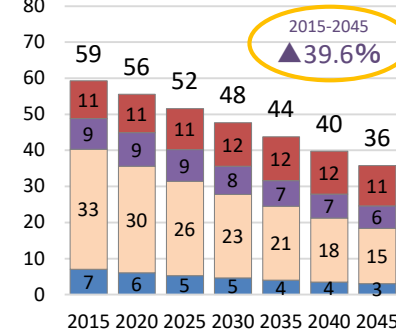
○岩手県の人口は2015年から2045年までの30年間で▲30.9%減少する見込み(全国▲16.3%)。
 ○15歳未満の人口は2015年から2045年までの30年間で▲46.0%減少する見込み(全国▲28.6%)。
 ○学区別では、県北・沿岸地域の減少率が特に高く、30年間で人口は平均▲43.4%(15歳未満人口では▲58.7%)の減少が見込まれる。

(単位:千人)

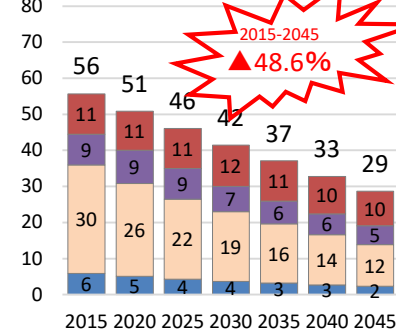
岩手県計



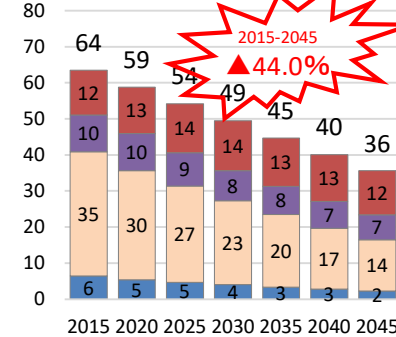
久慈ブロック



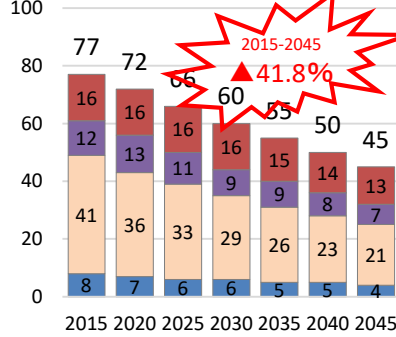
二戸ブロック



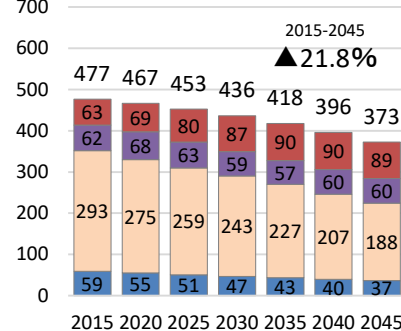
気仙ブロック



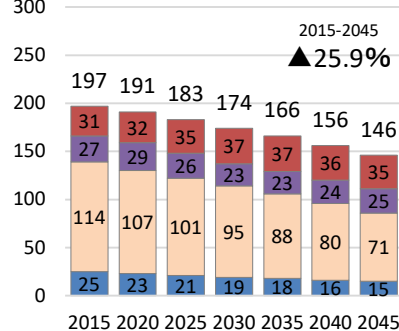
釜石・遠野ブロック



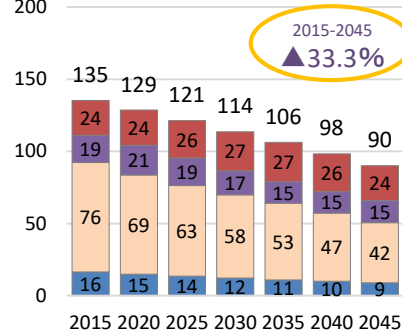
盛岡ブロック



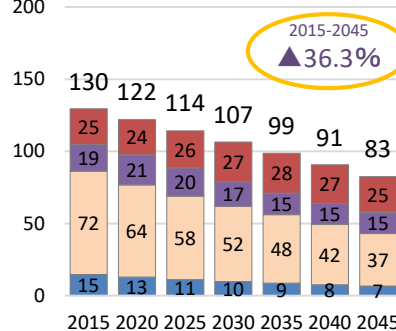
岩手中部ブロック



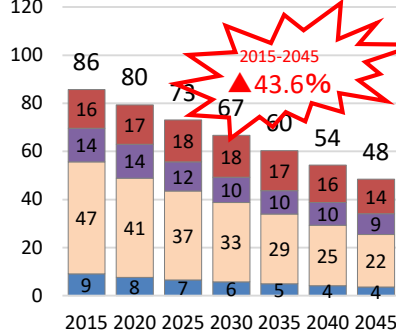
胆江ブロック



両磐ブロック



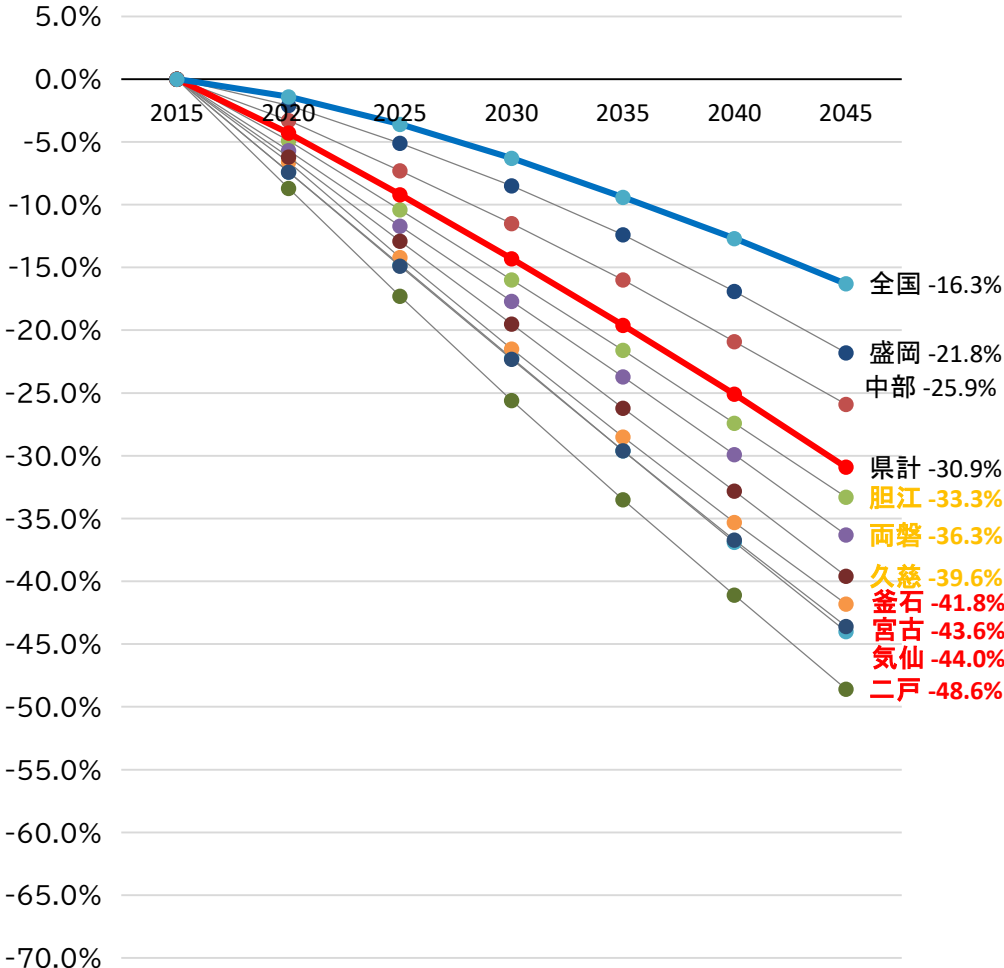
宮古ブロック



今後の人口の変化② (ブロック別 人口増減率推計)

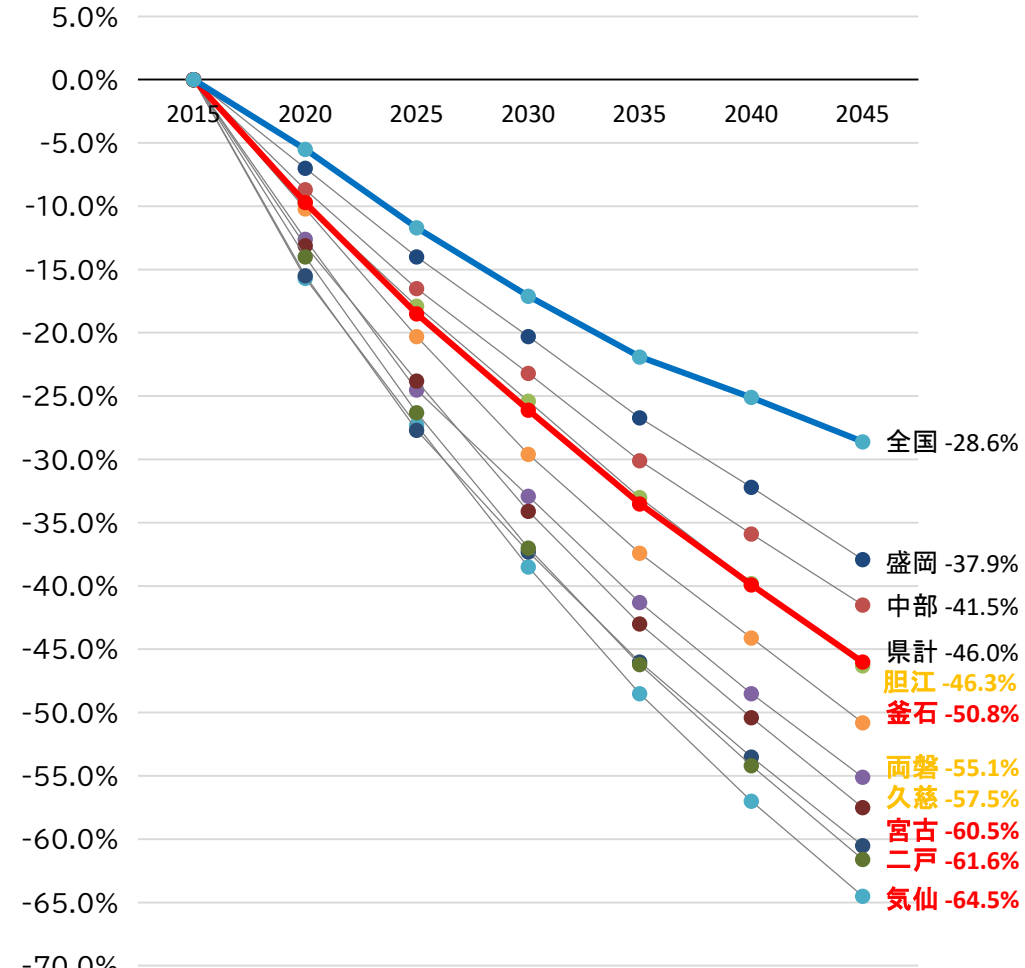
○総人口及び15歳未満人口の減少率は、全ての学区で、全国平均よりも高い減少率となっている。
 ○総人口の減少率が40%を超えているのは、二戸ブロック(▲48.6%)、気仙ブロック(▲44.0%)、宮古ブロック(▲43.6%)、釜石ブロック(▲41.8%)となっている。
 ○15歳未満人口の減少率が特に大きい地域は、気仙ブロック(▲64.5%)、二戸ブロック(▲61.6%)、宮古ブロック(▲60.5%)等である。

人口増減率(総人口)



赤色は、▲40.0%以上の人口(総人口)減少が見込まれる学区
 黄色は、▲30.0%以上の人口(総人口)減少が見込まれる学区

人口増減率(15歳未満人口)



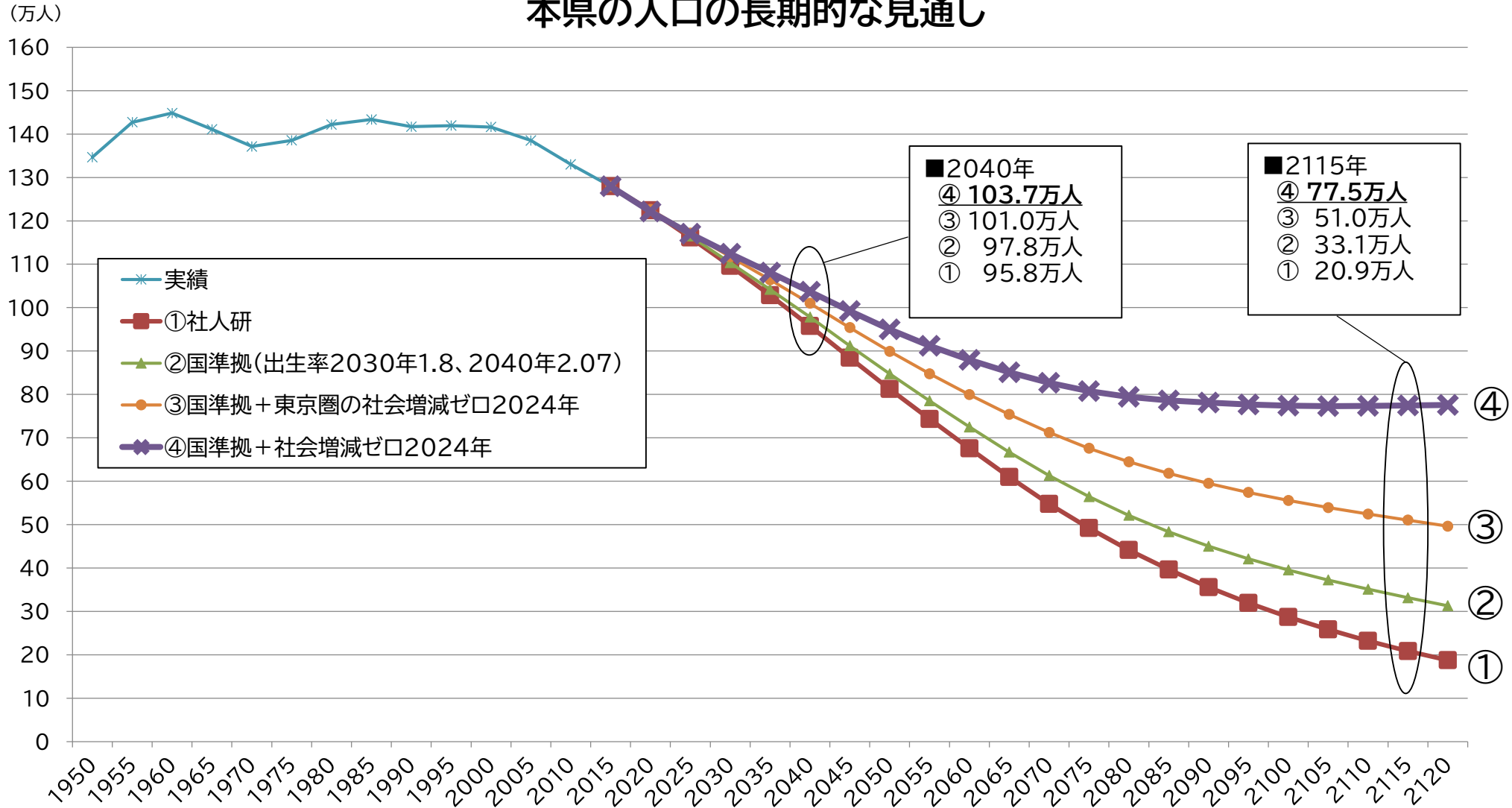
赤色は、▲40.0%以上の人口(総人口)減少が見込まれる学区
 黄色は、▲30.0%以上の人口(総人口)減少が見込まれる学区

今後の人口推移見通し(岩手県人口ビジョンより)

○国立社会保障・人口問題研究所の予測によると、岩手県の人口は2040年に96万人程度、2115年には21万人程度と試算。(下図①)

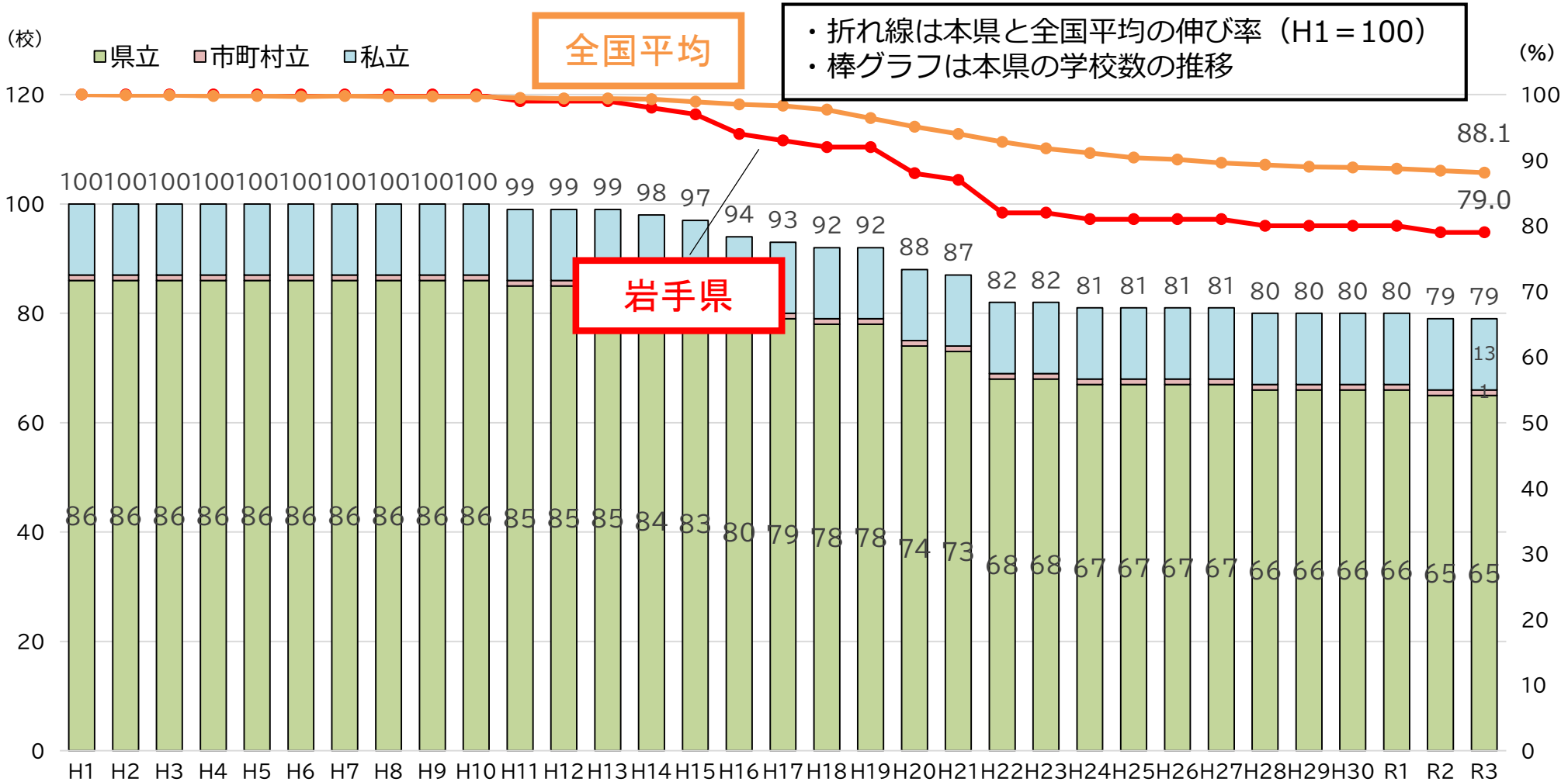
○本県では、出生率向上(国準拠:2030年1.8、2040年2.07)と本県の社会減ゼロを実現することにより、超長期的な人口増の可能性も視野に入れた人口の定常状態を目指し、2040年に100万人程度の人口を確保することを目標としている。(下図④)

本県の人口の長期的な見通し



【高等学校】学校数の推移

- 本県の高等学校数は、令和3年において79校。内訳は県立:65校、市町村立:1校、私立:13校となっており、県立高校が大半を占めている。
- 平成元年と令和3年の高校数を比較すると、21校減少(H1:100校⇒R3:79校)している。県立高校のみが減少しており、市町村立と私立の高校数は変わっていない。
- 減少率(H1比)を本県と全国平均で比較すると、本県の減少率の方が高い傾向にある。(R3 全国:88.1、岩手県:79.0)



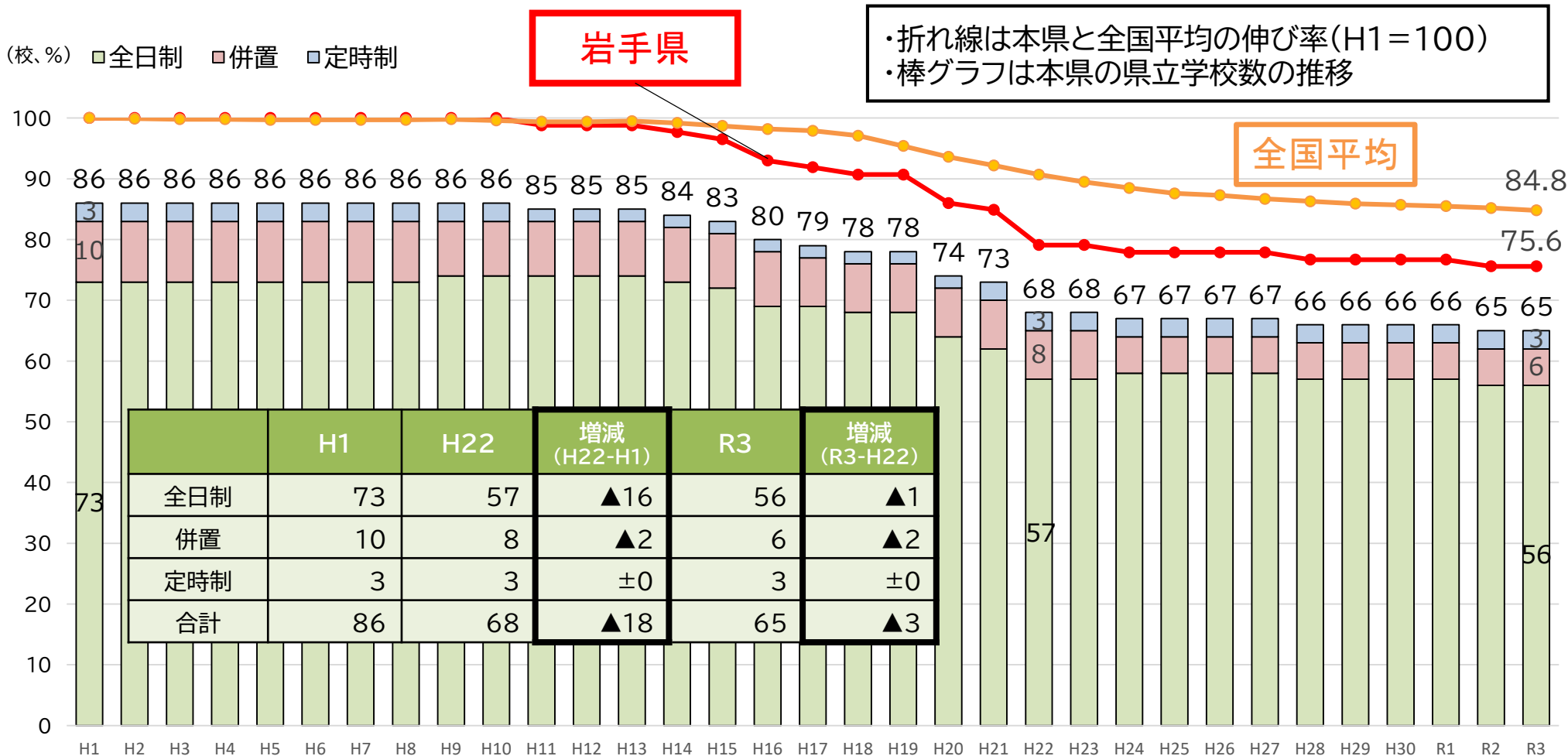
・ 出典: 学校基本調査(文部科学省)より作成

【高等学校】都道府県立学校数の推移①

○県立の高等学校数は、平成元年は86校であったが、令和3年には65校となっております、21校減少(H1:86校⇒R3:65校)している。内訳としては、全日制:▲17校、併置※:▲4校となっている。

※併置とは、全日制と定時制の両方の課程を設置している学校をいう。

○平成13年から平成22年において、高校再編が大きく進んだ(H13:85校⇒H22:68校、▲17校)ものの、その後は、減少幅が小さく(H23:68校⇒R3:65校、▲3校)なっている。

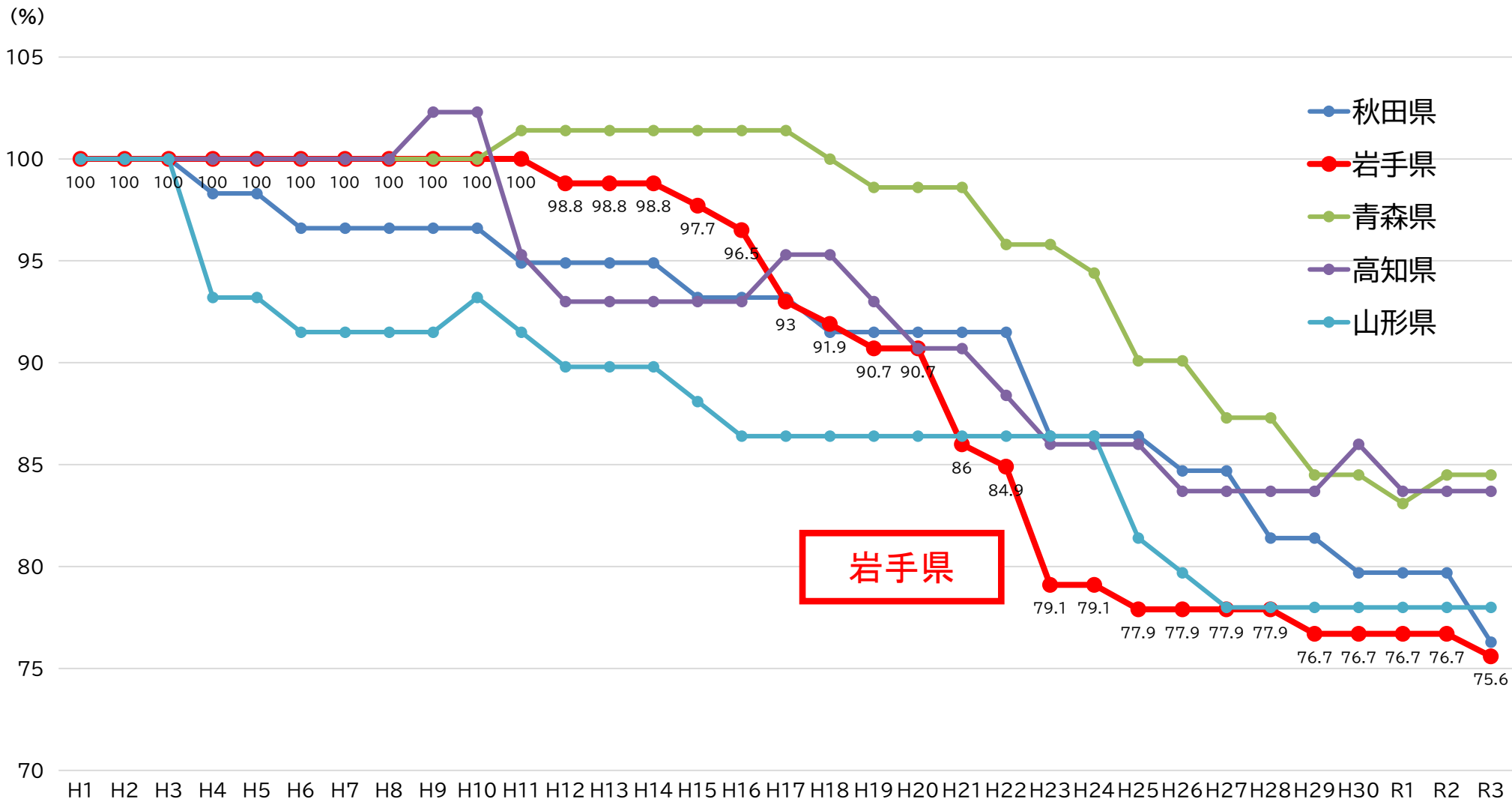


・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

【高等学校】都道府県立学校数の推移②

○都道府県立高等学校の減少率(H1比)について、令和2年度国勢調査の人口減少率が高い都道府県(上位5位)で比較すると、本県の減少率(75.6)が一番高くなっている。(本県減少率:全国5位)

○本県より減少率が高いのは、大分県(68.3)、徳島県(70.2)、岡山県(73.9)、新潟県(75.0)である。

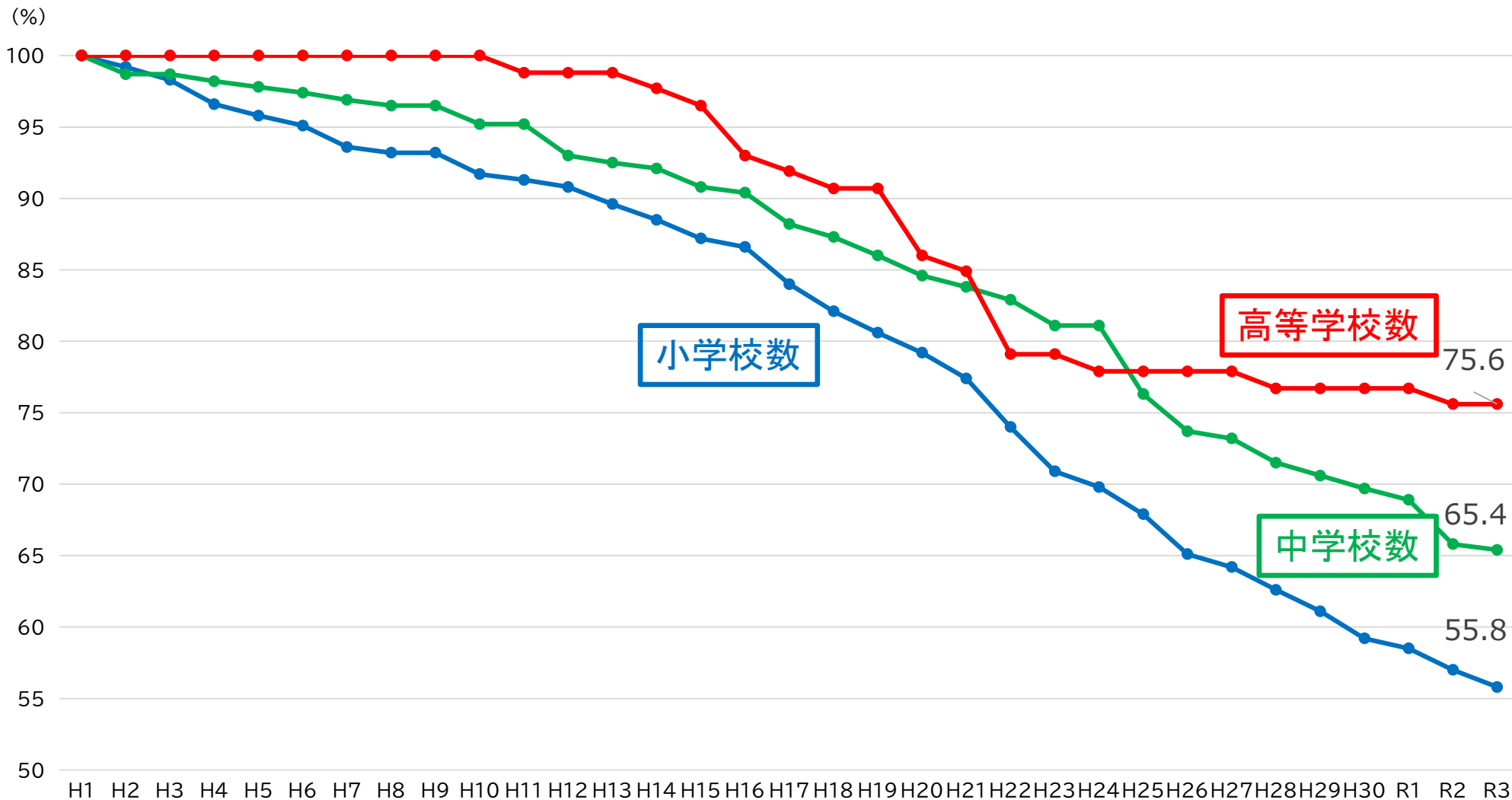


・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

【本県の小・中・高比較】学校数の減少率

○本県の市町村立小・中学校、県立高等学校について、減少率(H1比)を比較すると、令和3年においては県立の高等学校の減少率が一番低くなっている。

○平成22年に高等学校数が中学校数の減少率を上回ったが、平成22年以降、高等学校の統合数が減少した結果、一番低い減少率となった。



【高等学校】高校再編整備のこれまでの動向

○国立教育政策研究所の研究によると、平成の大合併を契機に高校再編は大きく進んだものの、その後、国の政策として高等学校が地方創生を進めるためのツールとして掲げられたことで、小規模校を許容する流れが起こり、近年は全国的に高校再編が大きく進んでいない状況であるとのこと。

■ 高校再編整備のこれまでの動向

年	事項	内容
平成元年以降	生徒減少期に突入	
}	高校教育の多様化	文科省の「高等学校教育の改革の推進に関する会議」報告等を受けて高校制度改革が行われ、単位制の導入、総合学科の創設、中高一貫教育の導入等が実現した。
平成17年前後	平成の大合併	学校再編が大きく進む。
平成23年	「第2次一括法」を制定	公立高等学校の収容定員について、1学年2学級以上という基準があったが廃止された。
平成26年	「 <u>まち・ひと・しごと創生総合戦略</u> 」	「 <u>まちの創生パッケージ</u> 」に「公立小・中学校の適正規模化、 <u>小規模校の活性化</u> 、休校した学校の再開支援」が掲げられた。
平成30年	「 <u>まち・ひと・しごと創生基本方針(2018)</u> 」	<p>■高等学校は、地域人材の育成において極めて重要な役割を担うとともに、高等学校段階で地域の産業や文化等への理解を深めることは、その後の地元定着やUターン等にも資する。</p> <p>■高等学校も活用した地方創生を進めるための地域の基盤構築について、事例等の紹介も行いながら推進する。</p>

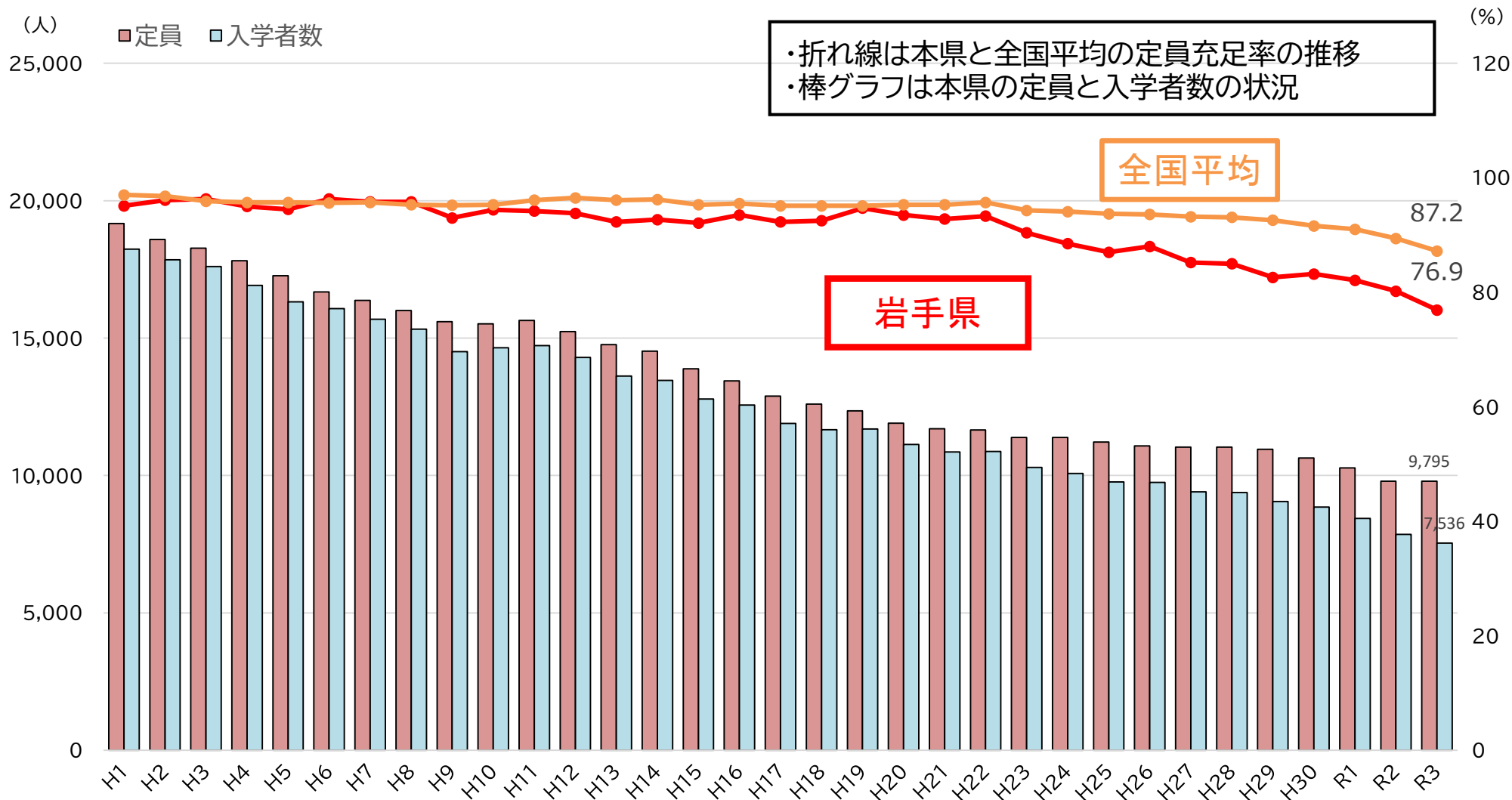
■ 各都道府県における学級数の適正規模(H30時点)

・各都道府県で設定している高校の適正規模等は、1学年4～8学級が多い(26道県)。
 ・しかし、8割近い都道府県が適正規模とは別に再編整備の検討基準を設けている、あるいは適正規模に満たない高校の学校の存続を許容する考えを示しており、小規模校を許容する流れが全国的な傾向となっている。

【高等学校】定員充足率の推移(公立)

○本県の公立高等学校における定員充足率は、令和3年度において76.9%(入学者数:7,536人、定員:9,795人)となっており、全国平均(87.2%)よりも充足率が低い。

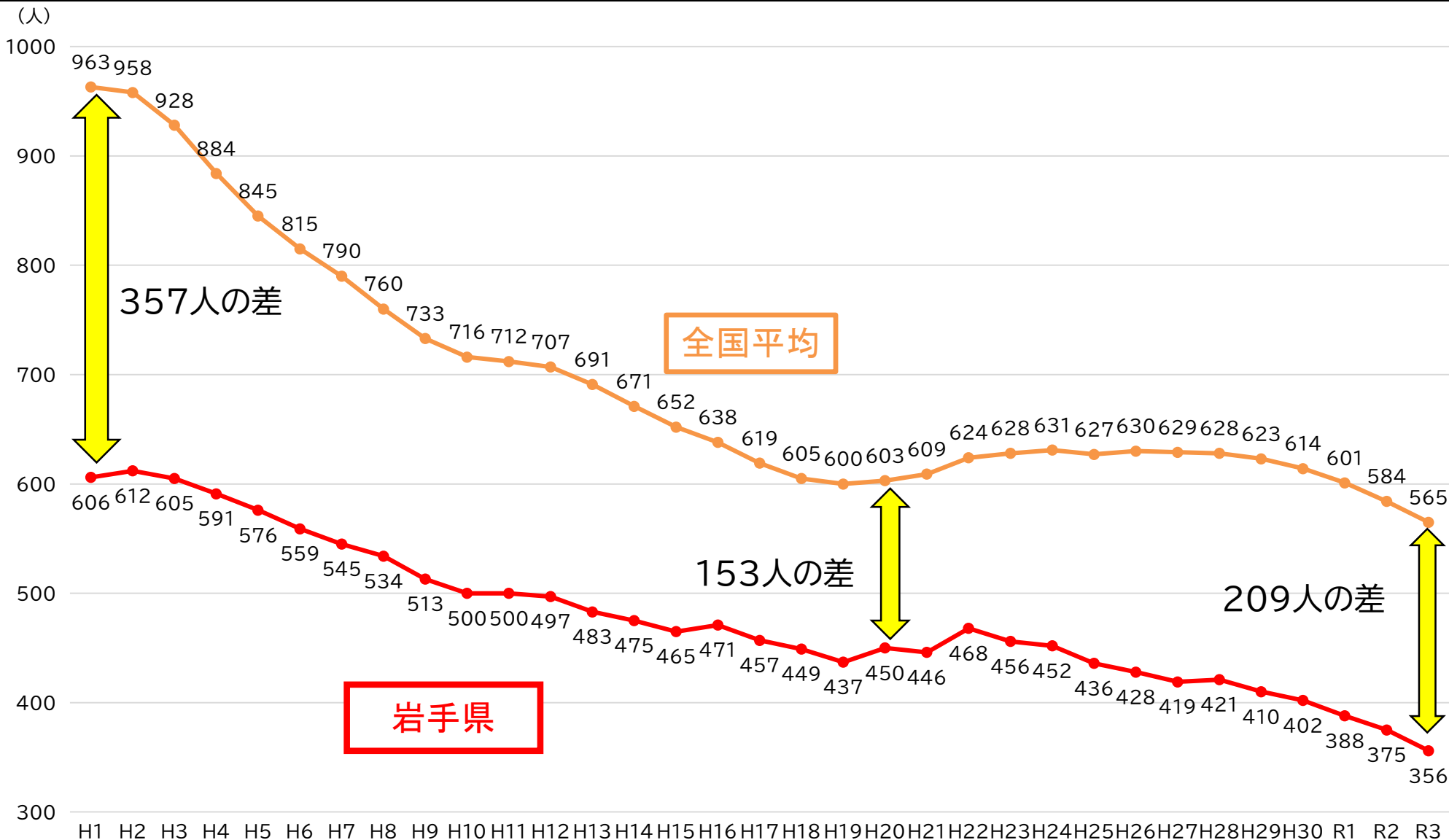
○高校再編が活発であった平成22年度までは、充足率は100%に近い状況であったが、それ以降は低下傾向にある。



・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

【高等学校】1学校あたり生徒数の推移(公立)

○本県の高等学校(公立)における1学校当たり生徒数は、令和3年度において356人となっている。
 ○全国平均との差は、再編を大きく進めていた平成20年度までは縮小していたが、その後は、拡大傾向にある。

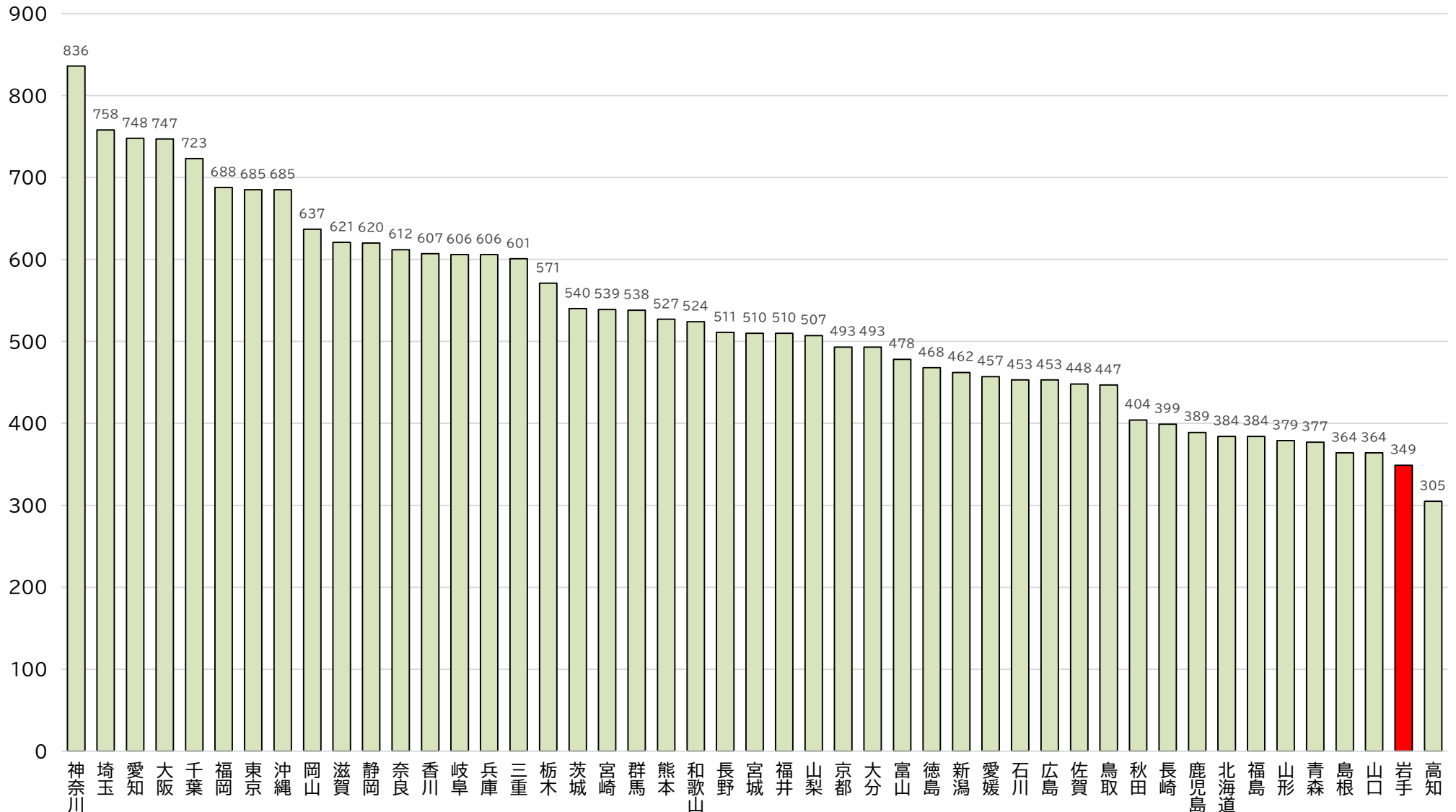


出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

【高等学校】県立高校の1高校当たり人数

○令和2年度時点の本県の1校当たり人数は、349人/校となっており、高知県に次いで2番目に少なく、学校の小規模化が進行している状況。

(単位:人/校)

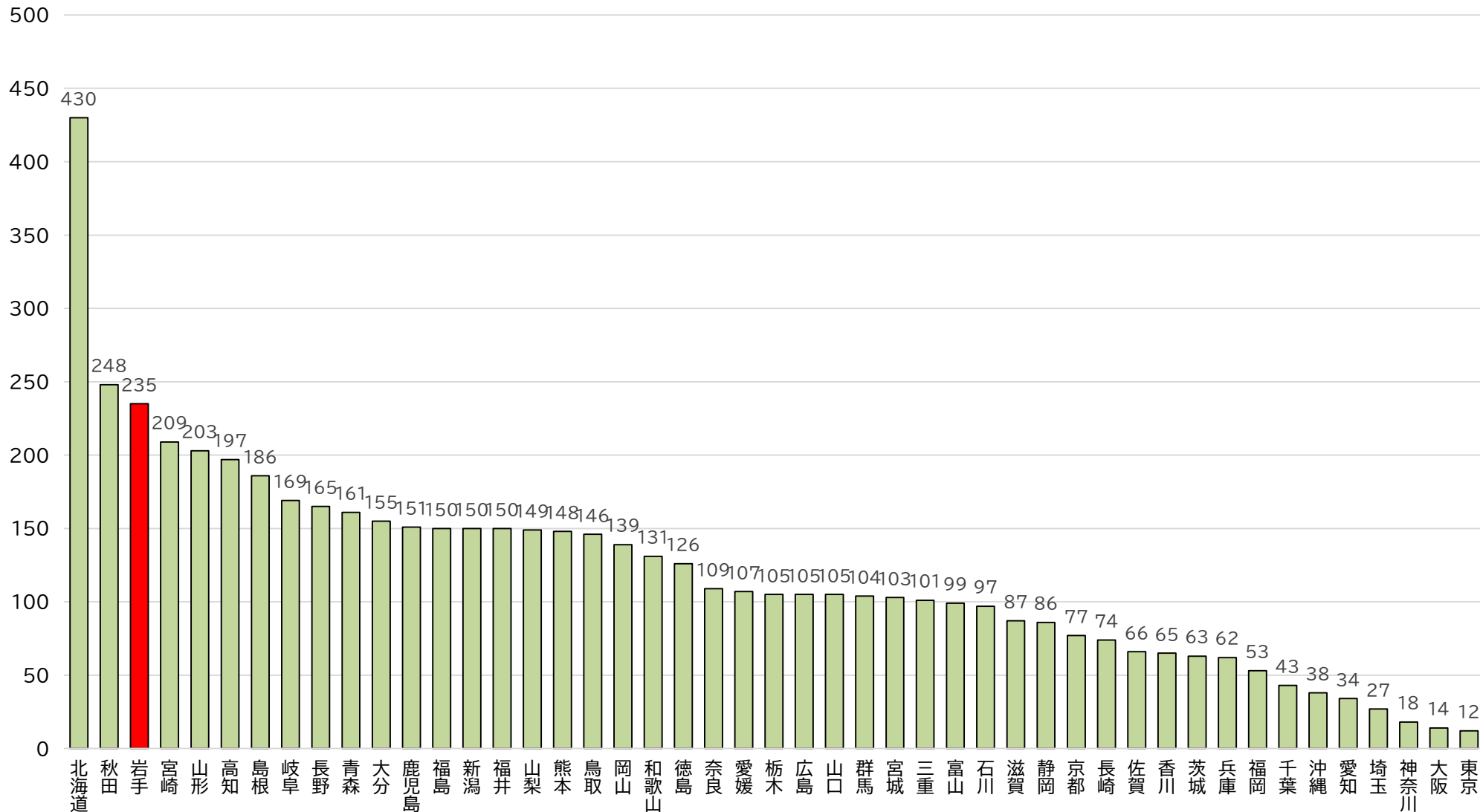


・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

【高等学校】県立高校の1高校当たり面積(学校数/都道府県面積)

○令和2年度時点の本県の1高校当たり面積は、235km²/校となっており、全国で3番目に広がっている。

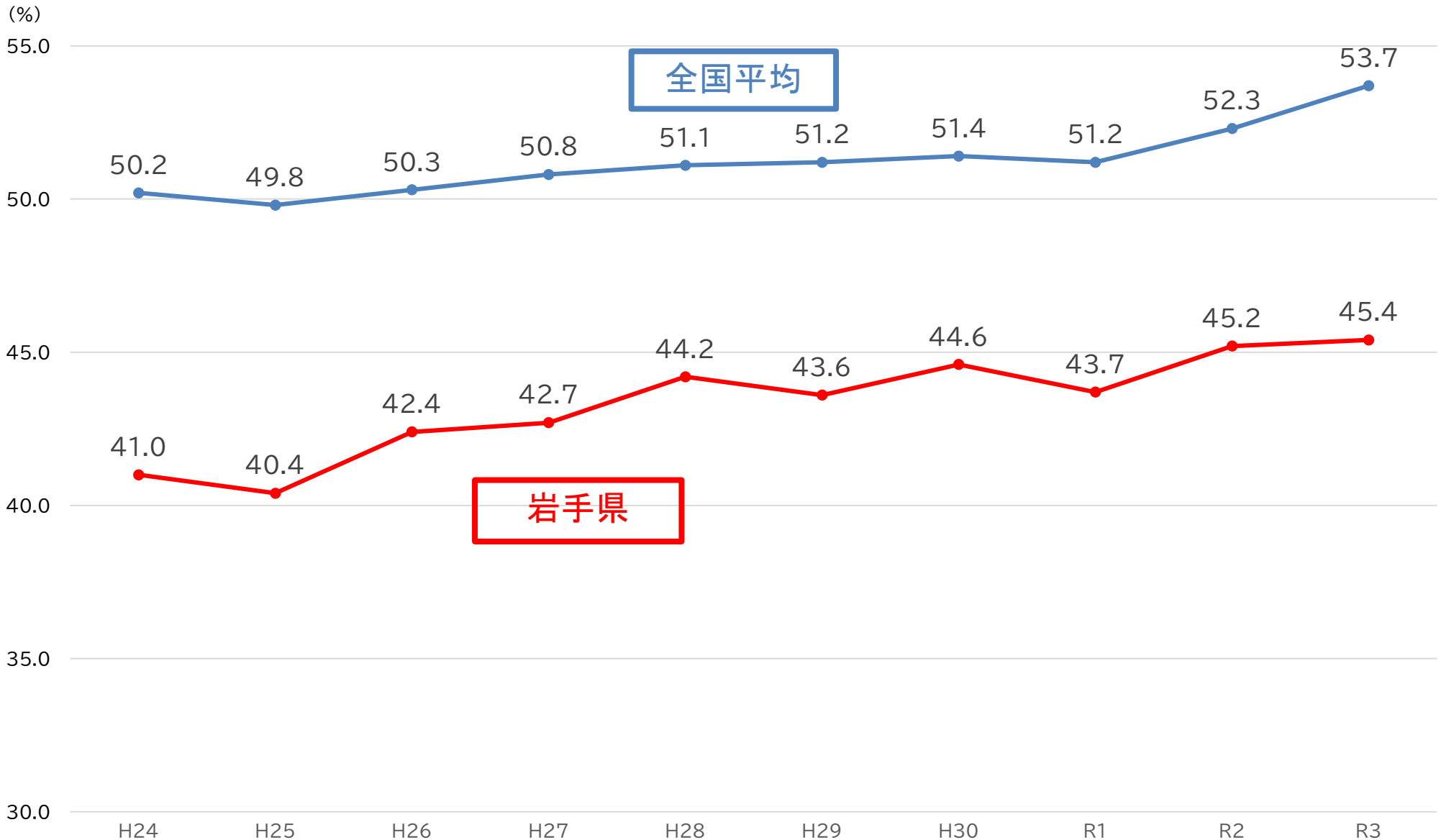
(単位:km²/校)



・ 出典: 学校基本調査(文部科学省)及び全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院)より作成

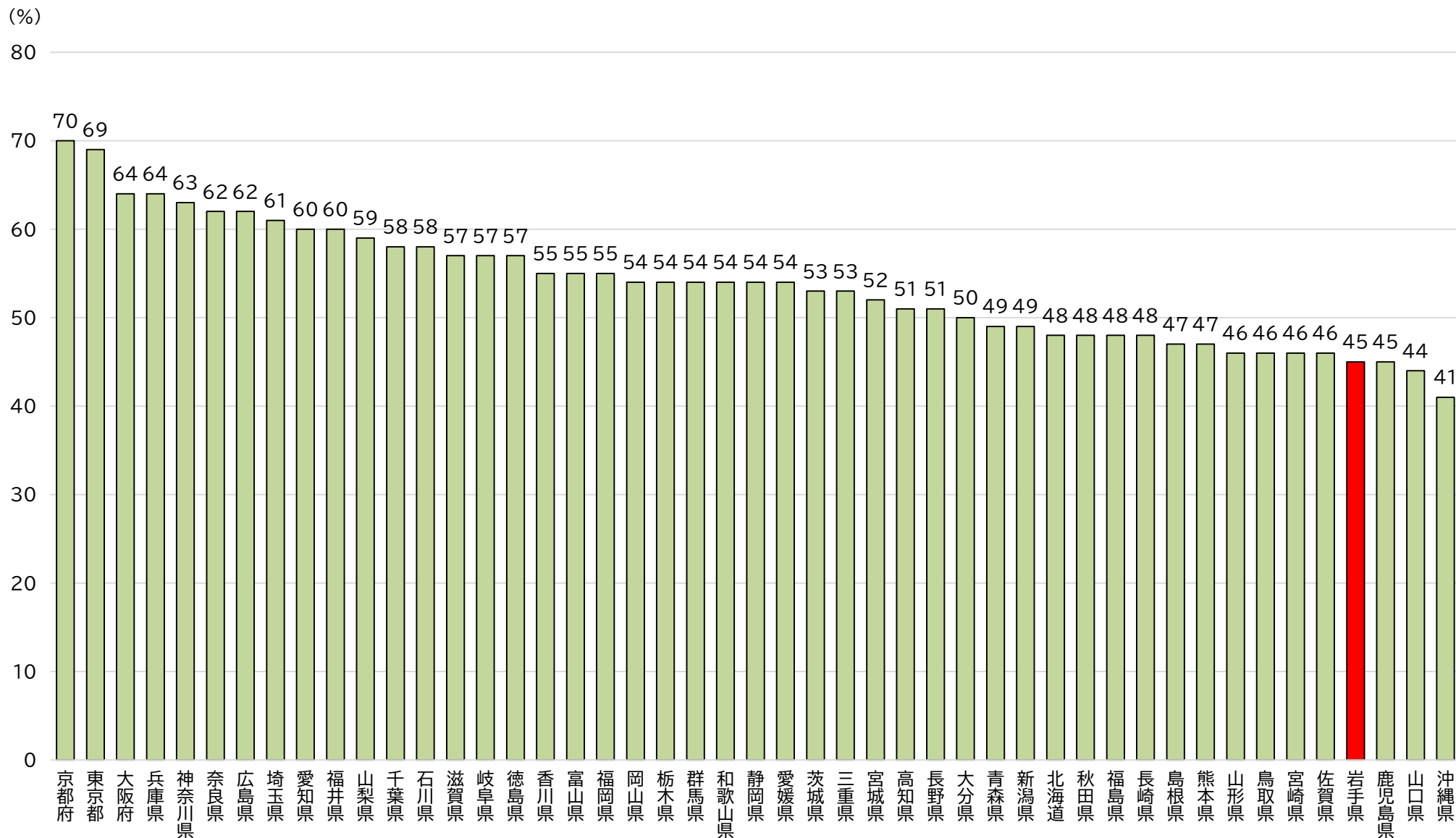
【高等学校】大学進学率の推移

○本県の大学進学率は、令和3年度で45.4%となっており、年々増加傾向にあるものの、全国平均よりも低くなっている。



【高等学校】大学進学率の都道府県比較

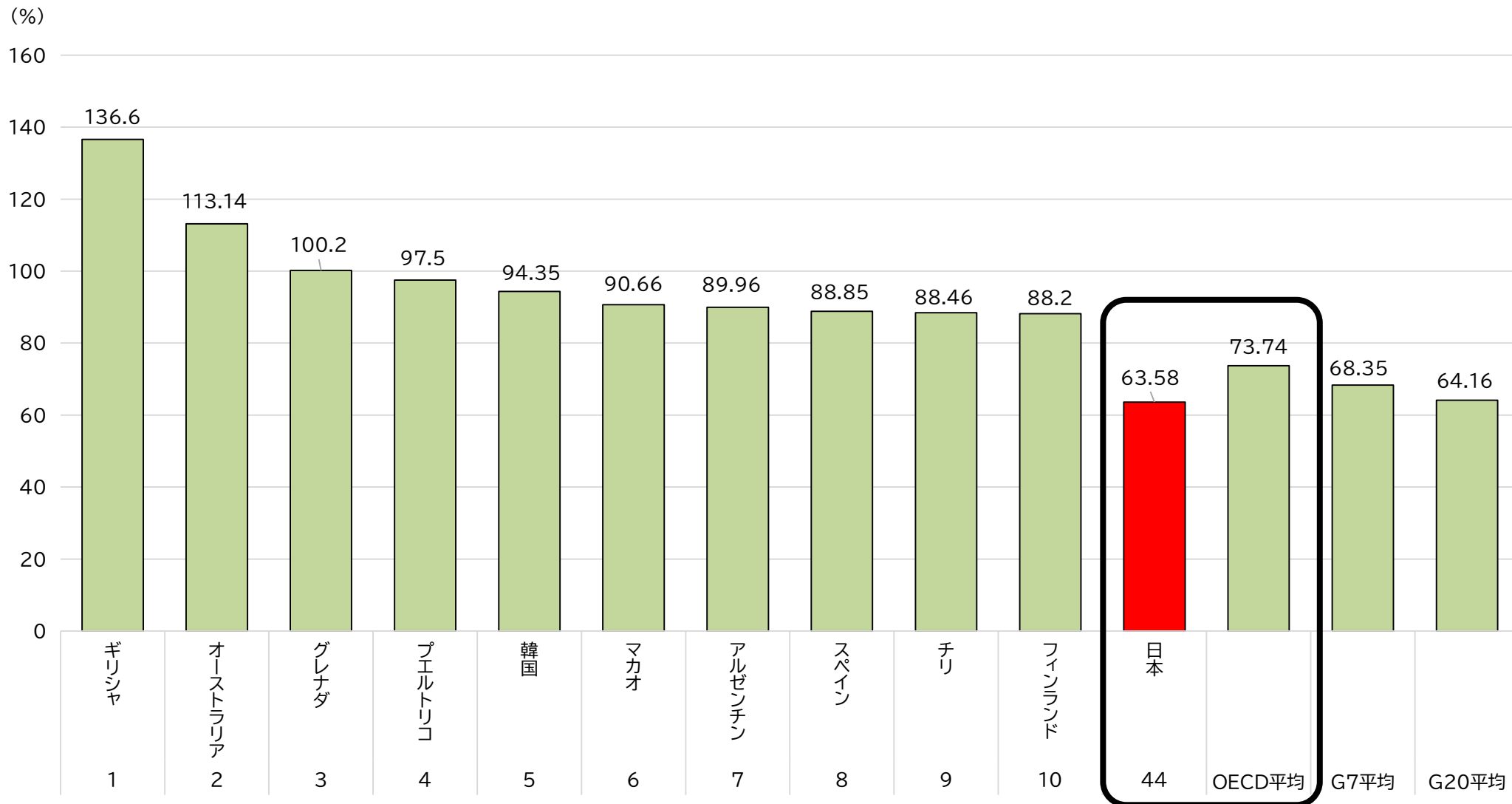
○令和3年3月の卒業生の大学進学率は45%となっており、全国下位(全国44位)となっている。



・ 出典: 学校基本調査(文部科学省)より作成

【高等学校】日本と世界の大学進学率比較（2018）

○ 2018年の日本の大学進学率は63.58%（世界第44位）となっており、OECD平均よりも10%程度低くなっている。



※総入学者数には、適齢年齢以外の入学者(浪人生など)や留学生も含むため、進学率が100%を超えている国あり。

- 本県の令和3年度のセンター試験の平均点は490.2点となっており、全国最下位。平成29年度以降、全国最下位に留まっている状況。(本県の令和元年度(R2及びR3はデータなし)の現役志願率は43.6%となっており、全国平均(44.0%)と大きな差はない。)
- 全国平均点と本県の得点差は令和2年度まで拡大傾向であったが、令和3年度に大きく縮小したものの、依然として差があるため、学力の向上は本県の喫緊の課題となっている。

■センター試験の状況(900点満点)

	H29		H30		R1		R2	R3
	平均点	現役志願率	平均点	現役志願率	平均点	現役志願率	平均点	平均点
岩手県	478.1(47)	42.8(23)	477.8(47)	43.8(21)	489.1(47)	43.6(19)	467.2(47)	490.2(47)
東京都	657.0(1)	57.1(1)	656.5(1)	58.1(1)	669.0(1)	57.0(1)	648.8(1)	649.1(1)
全国平均	570.0	43.9	569.6	44.6	583.4	44.0	563.5	566.9
本県と全国平均の差	▲91.9	▲1.1	▲91.8	▲0.8	▲94.3	▲0.4	▲96.3	▲76.7

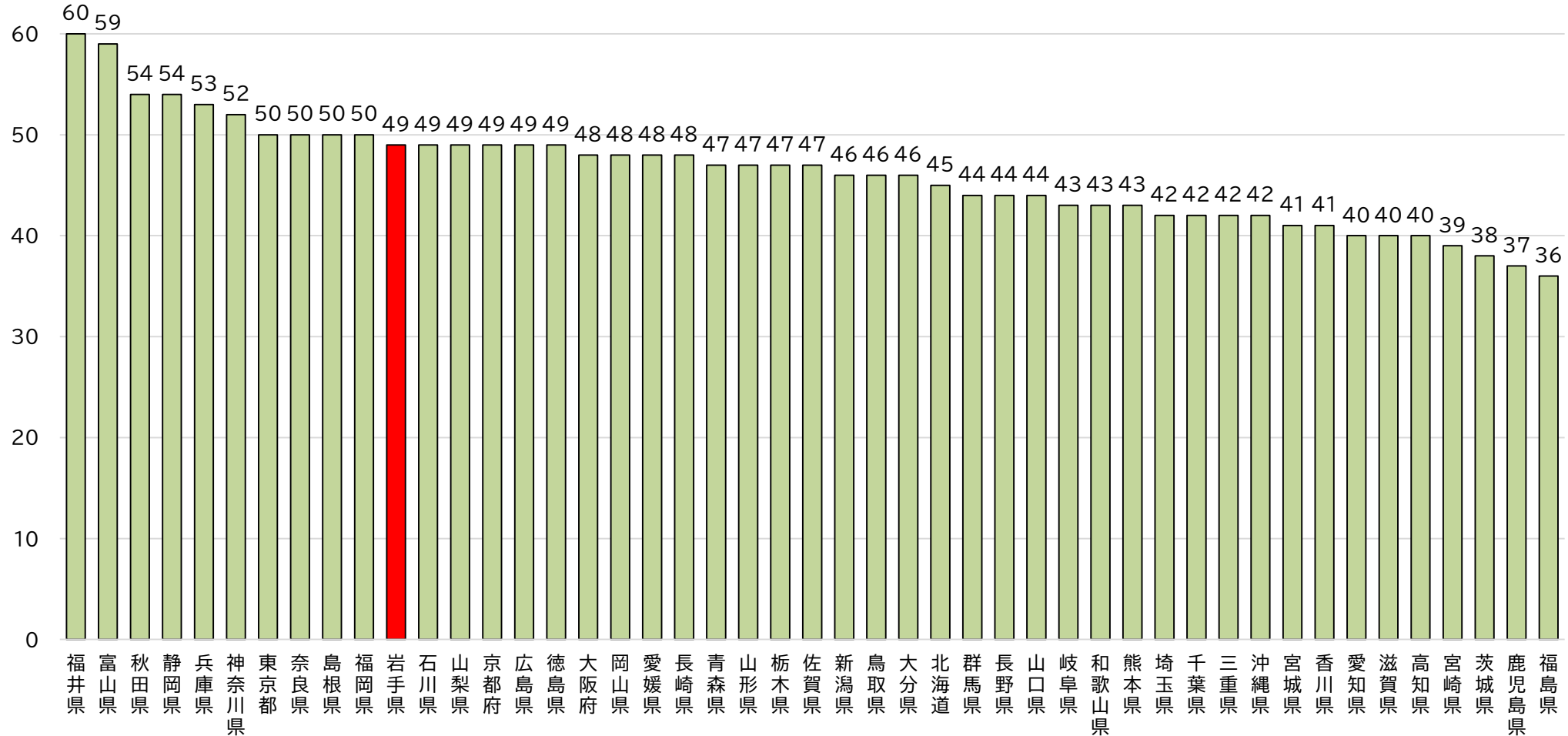
※()は全国都道府県順位

【高等学校】生徒の英語力の状況

○令和3年度の公立高等学校における英語教育実施状況調査のCEFR A2レベル相当(英検準2級程度)以上を取得又は、能力を有すると思われる生徒(高校3年生)の割合は49%となっており、全国上位(全国11位)となっている。

(%)

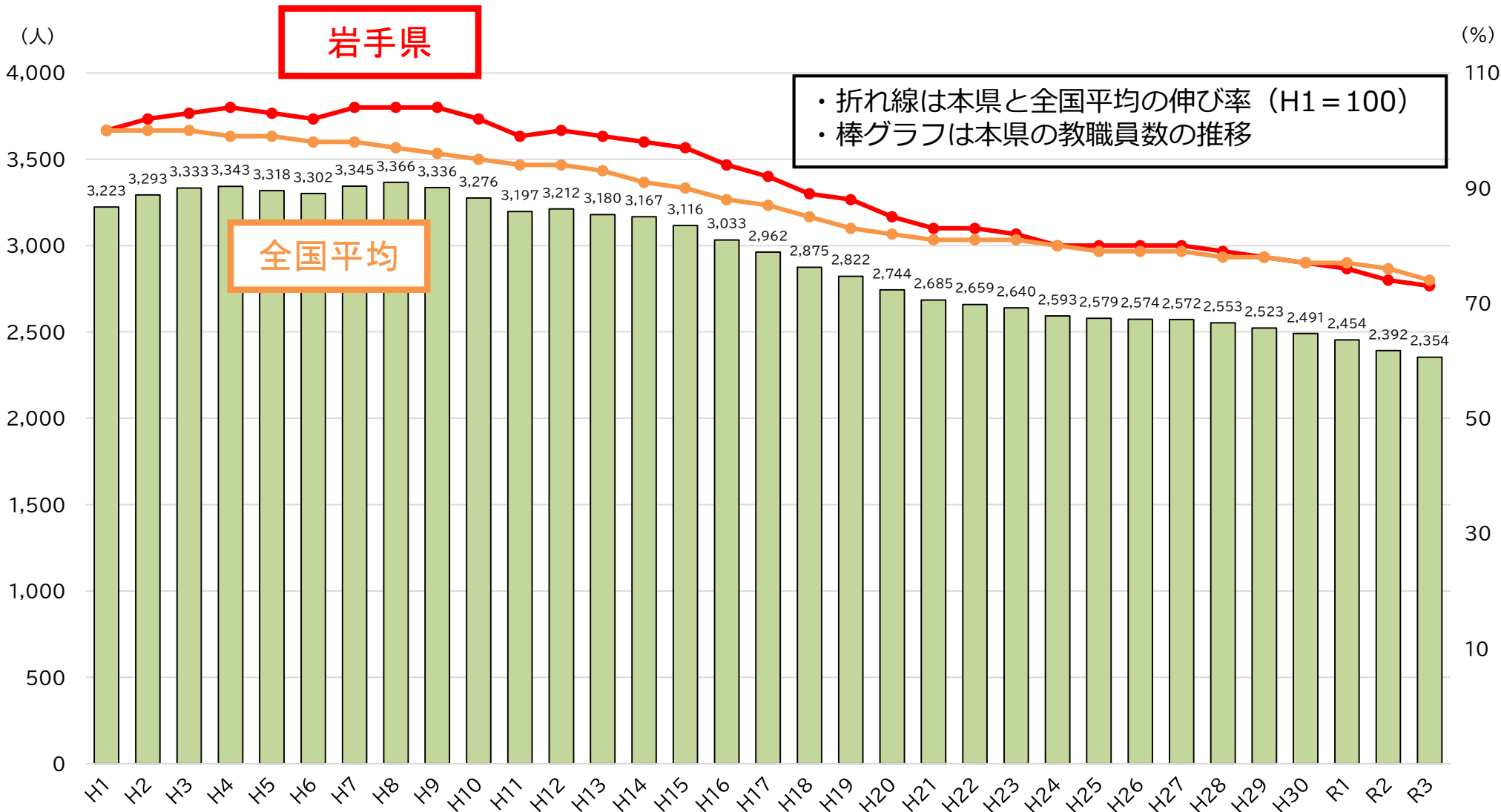
70



【高等学校】県立高等学校の教職員数の推移

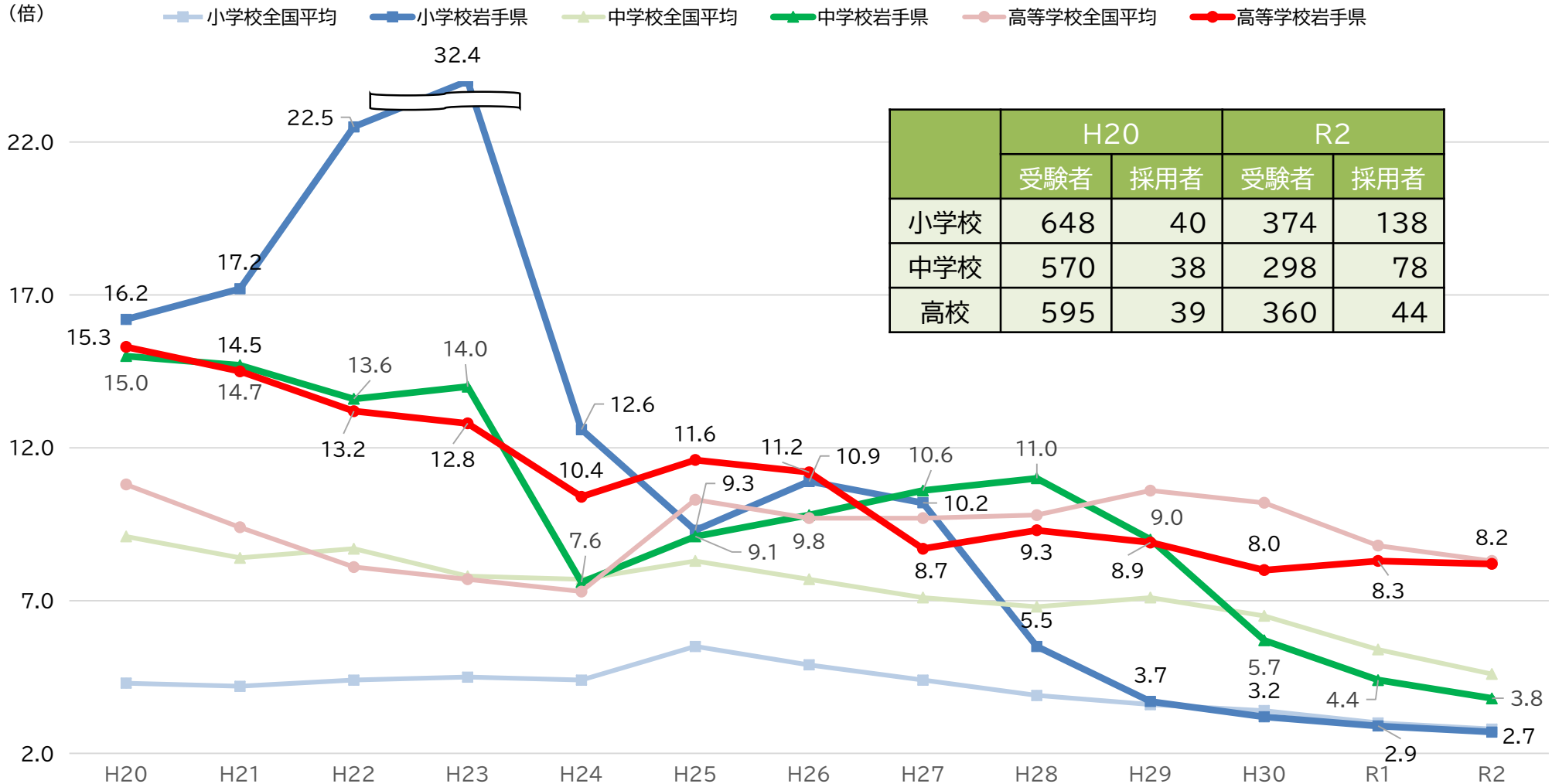
○本県の令和3年度における教職員数は、2,354人となっており、ピーク時の平成8年度と比較すると、1,012人減少(減少率:▲30.1%)。

○減少率(H1比)を本県と全国平均で比較すると、H23までは本県の減少率の方が低かったが、その後は概ね同様の傾向となっている。



教職員の採用倍率の推移(公立学校)

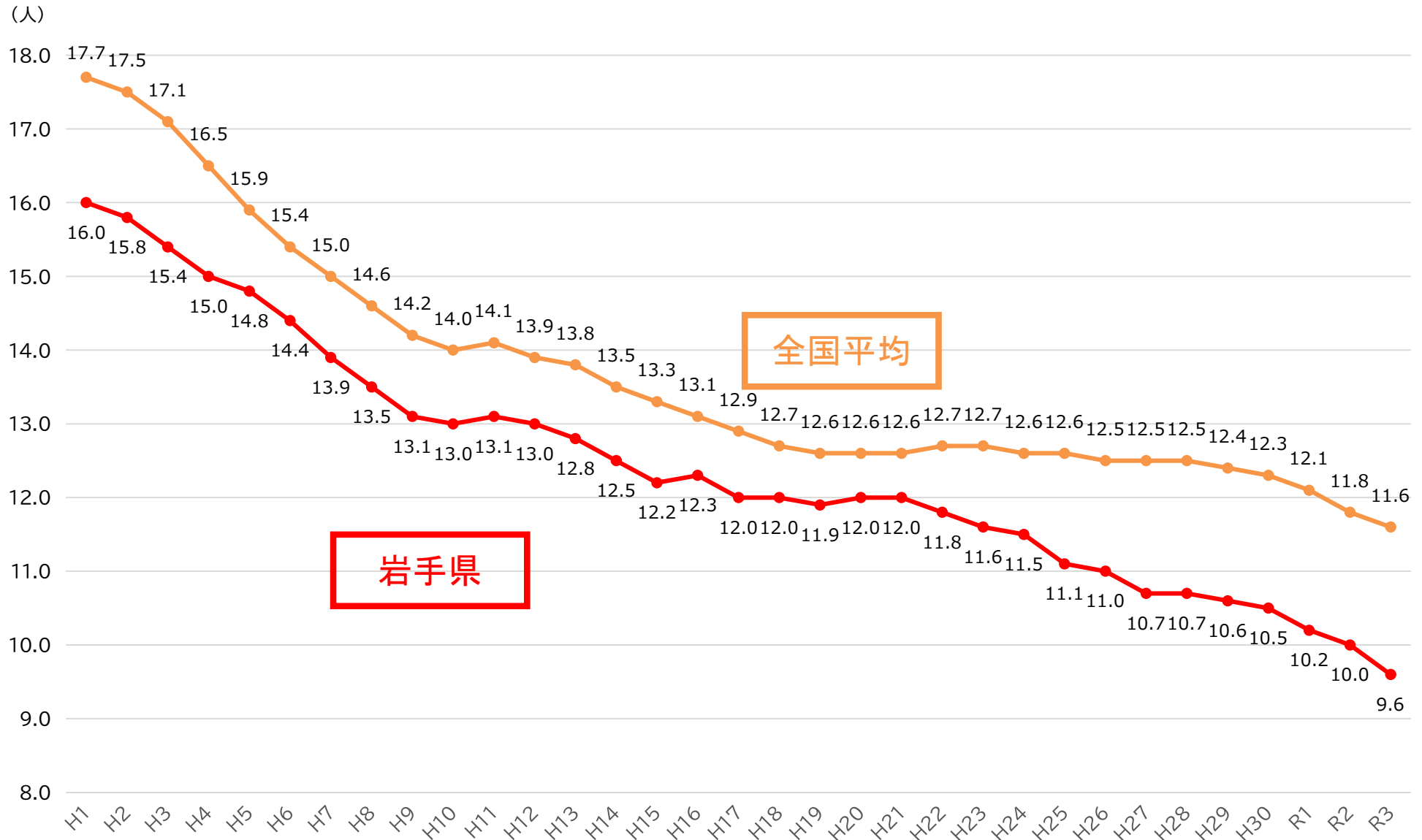
- 本県の令和2年度教員試験採用倍率は、小学校2.7倍、中学校3.8倍、高校8.2倍となっている(全国平均と大きな差はない状況)。
- 採用倍率は、小・中・高の全てで低下傾向にあるが、小・中においては受験者数が減少していることに加えて、採用者数が大きく増加していることが要因となっており、高校は受験者数が減少していることが要因となっている。
- 採用倍率は、人材の質に直結するため、教職員の魅力向上による「なり手の確保」は喫緊の課題である。



・ 出典:公立学校教員採用選考試験の実施状況(文部科学省)より作成

【高等学校】都道府県立高等学校の教職員一人あたり生徒数の推移

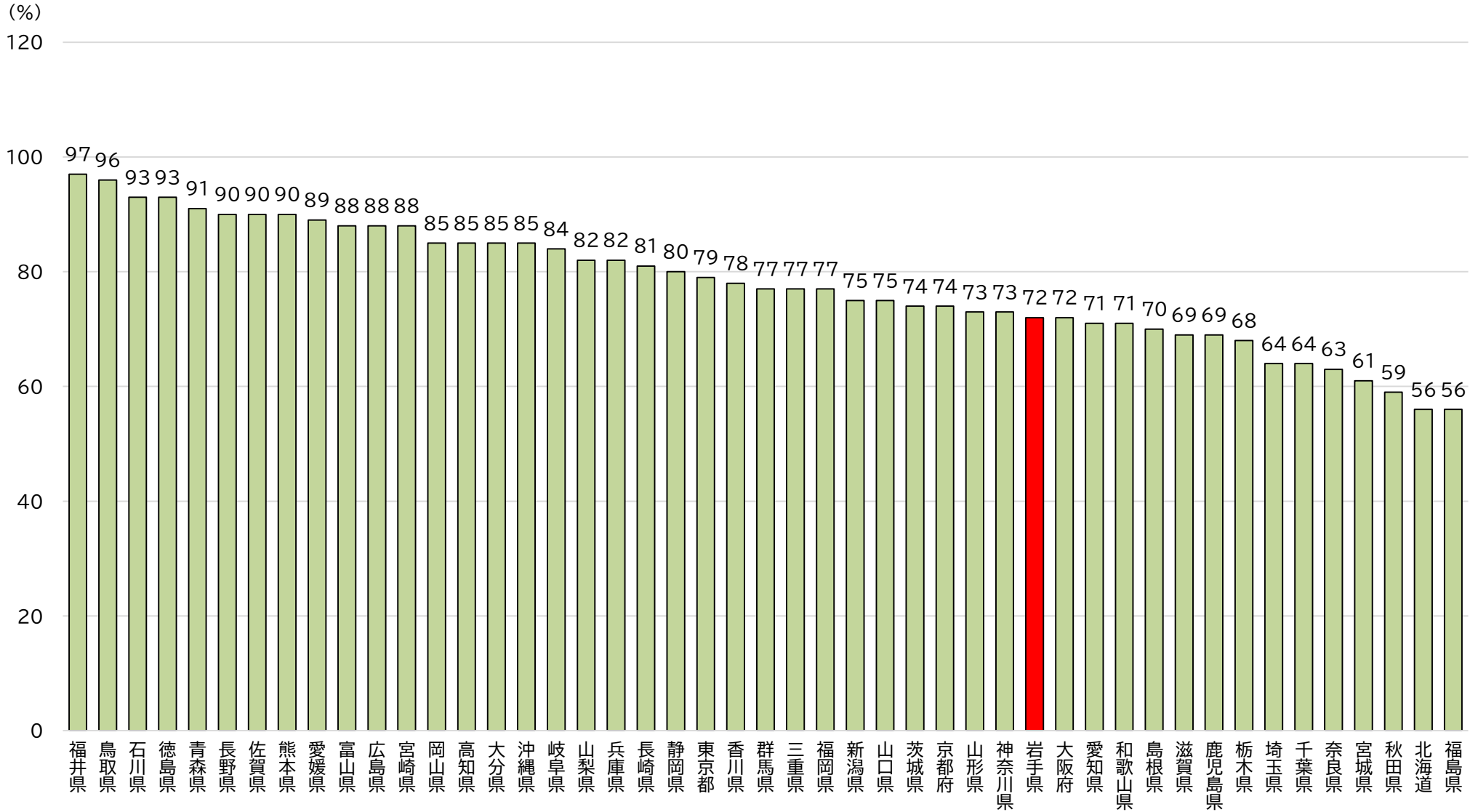
○本県の令和3年度における教職員一人あたり生徒数は、9.6人となっており、全国平均の11.6人と比較して少ない人数となっている。



・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

【高等学校】先生の英語力の状況

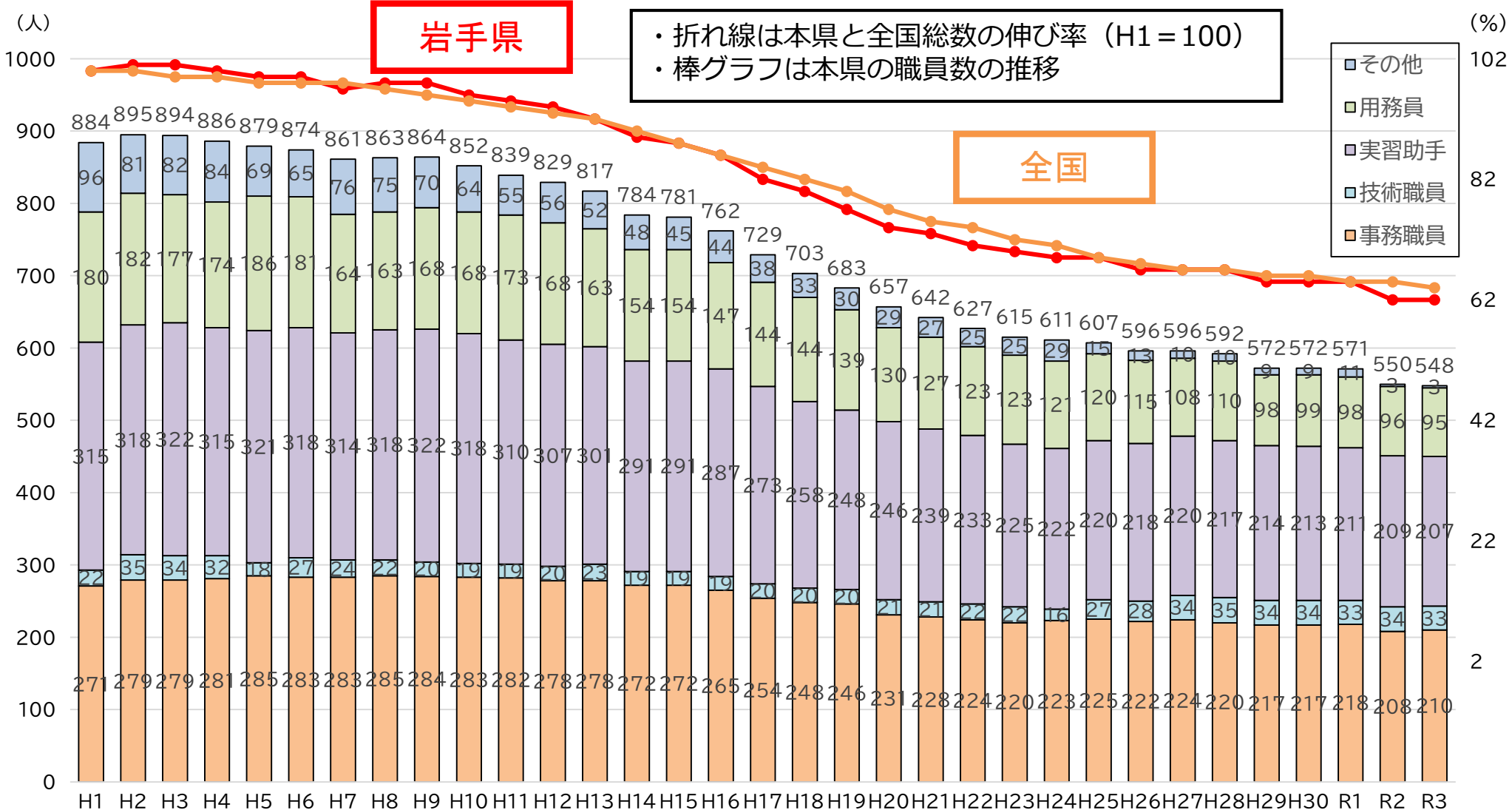
○ 令和3年度の公立高等学校における英語教育実施状況調査のCEFR B2レベル相当(英検準1級程度)以上を取得している先生の割合は72%となっており、全国中位(全国33位)となっている。



【高等学校】公立高等学校の職員構成(教職員を除く)

○本県の公立高等学校における令和3年度職員数(教職員を除く)は548人となっており、事務職員や実習助手が多くを占めている。

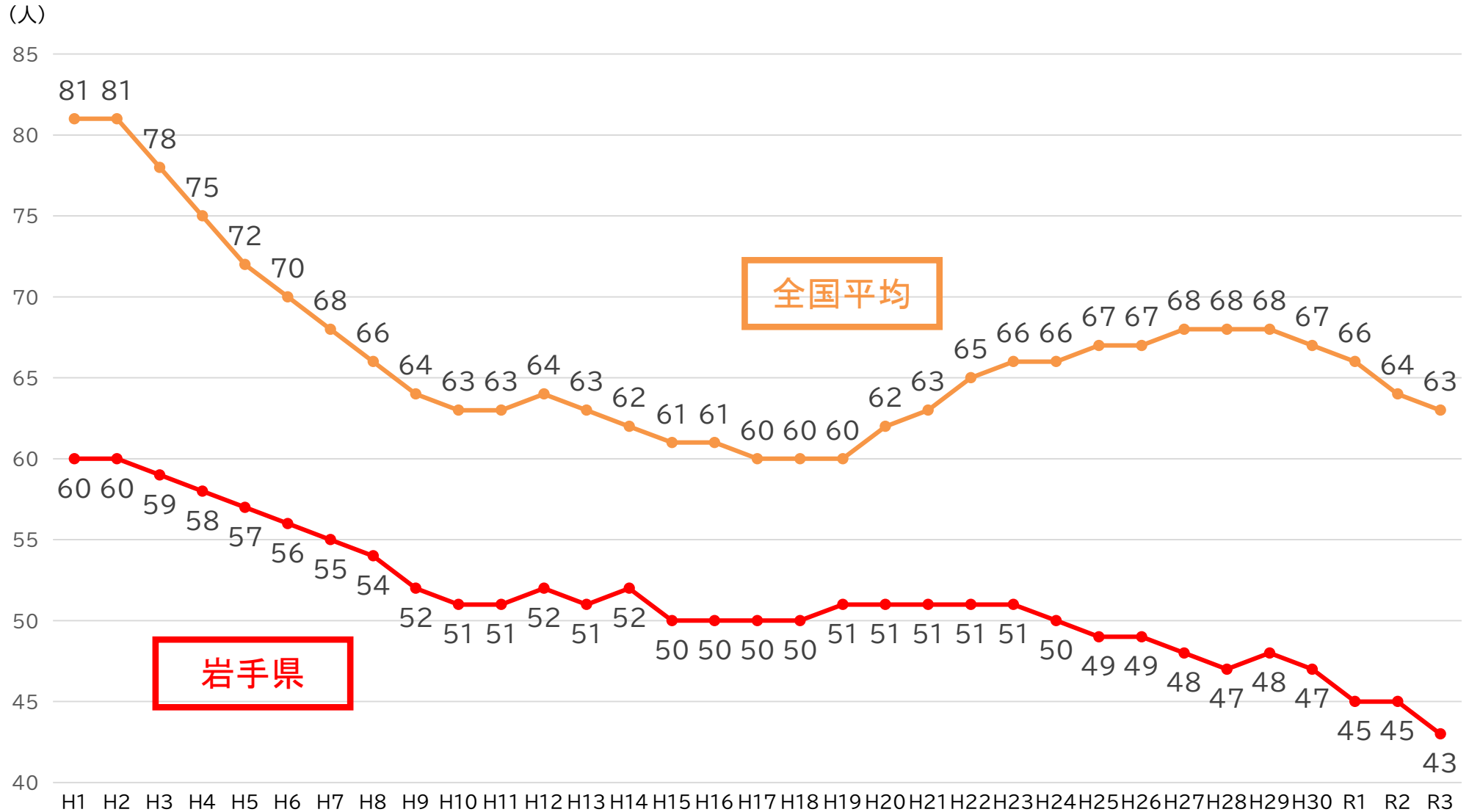
○職員数の増減率は、全国と本県で大きな差はない。



・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

【高等学校】公立高等学校における職員(教職員を除く)一人あたり生徒数

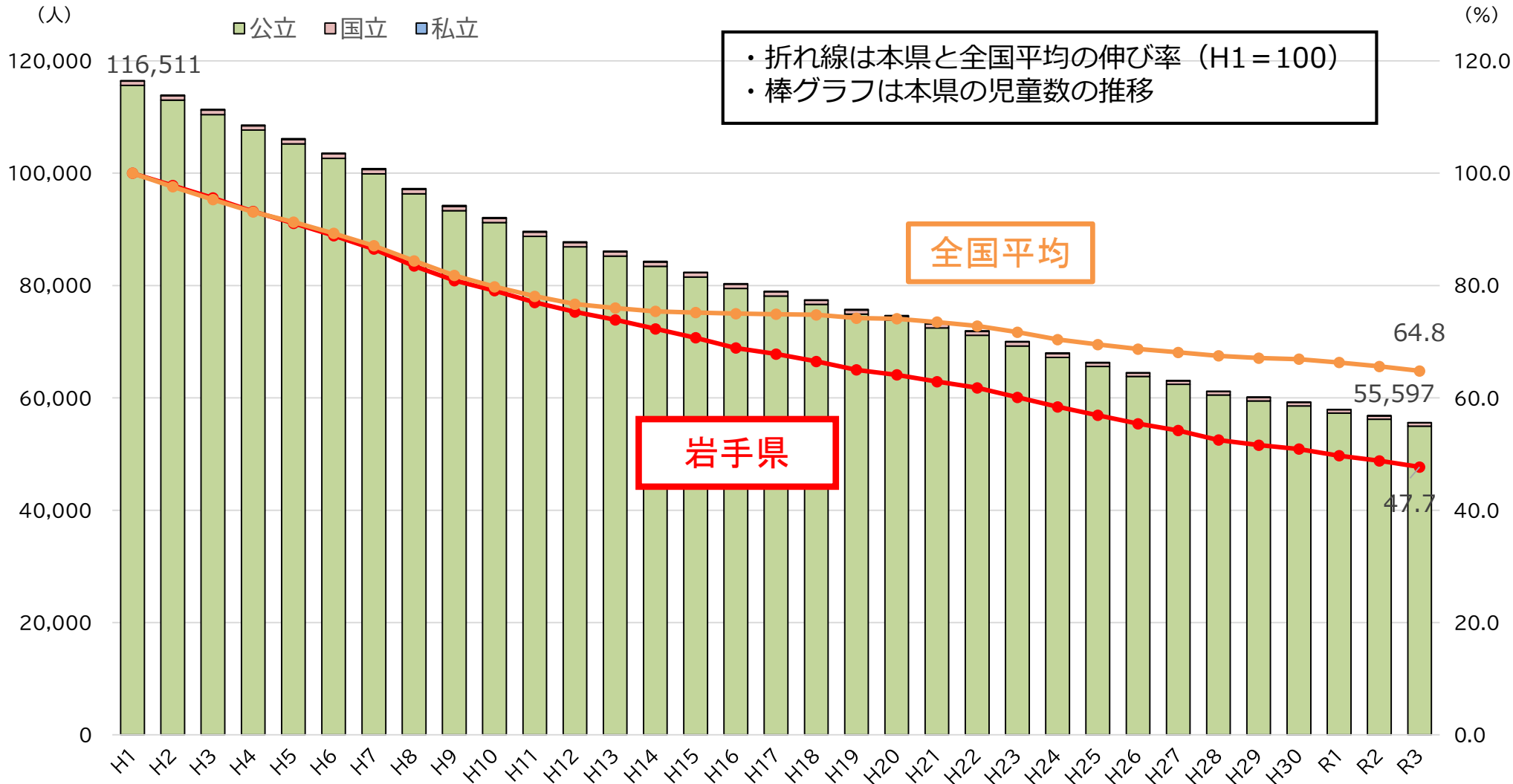
○令和3年度における公立高等学校の職員一人あたり生徒数は、本県は43人となっており、全国平均の63人と比較して少ない人数。



・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

(参考資料)【小学校】児童数の推移

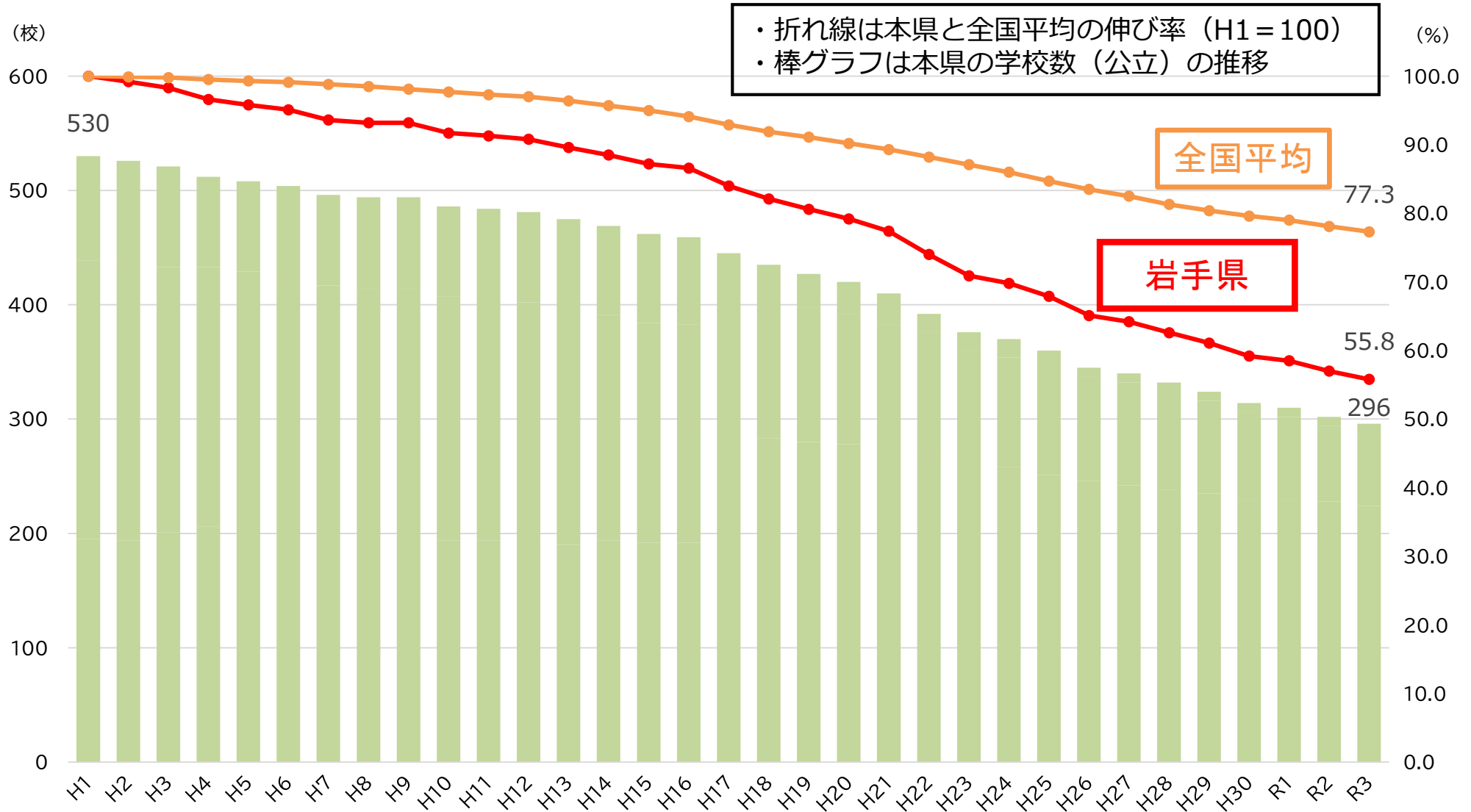
○本県の小学校の児童数は、令和3年度において55,597人(公立:54,984人、国立:587人、私立:26人)となっている。平成元年と比較すると、▲60,914人減少しており、半分以下となっている、
 ○平成元年と比較した減少率は、全国平均と比較して、本県の方が大きい。(R3 全国:64.8、岩手県:47.7)



・ 出典: 学校基本調査(文部科学省)より作成

(参考資料)【小学校】公立学校数の推移①

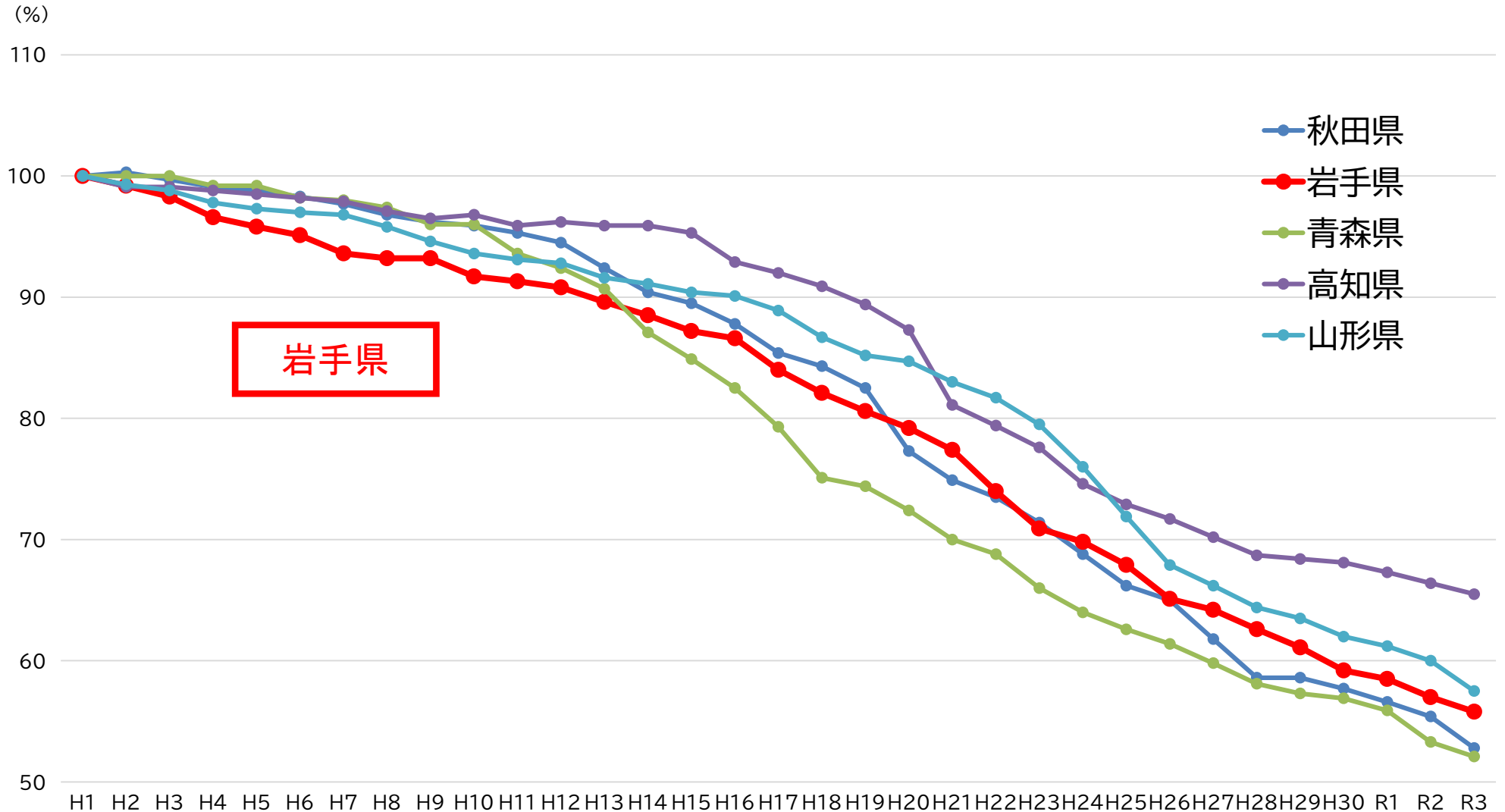
○市町村立の小学校は、令和3年度において296校となっており、平成元年と比較すると、▲234校減少している。
 ○平成元年と比較した減少率は、全国平均と比較して、本県の方が大きい。(R3 全国:77.3、岩手県:55.8)



・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

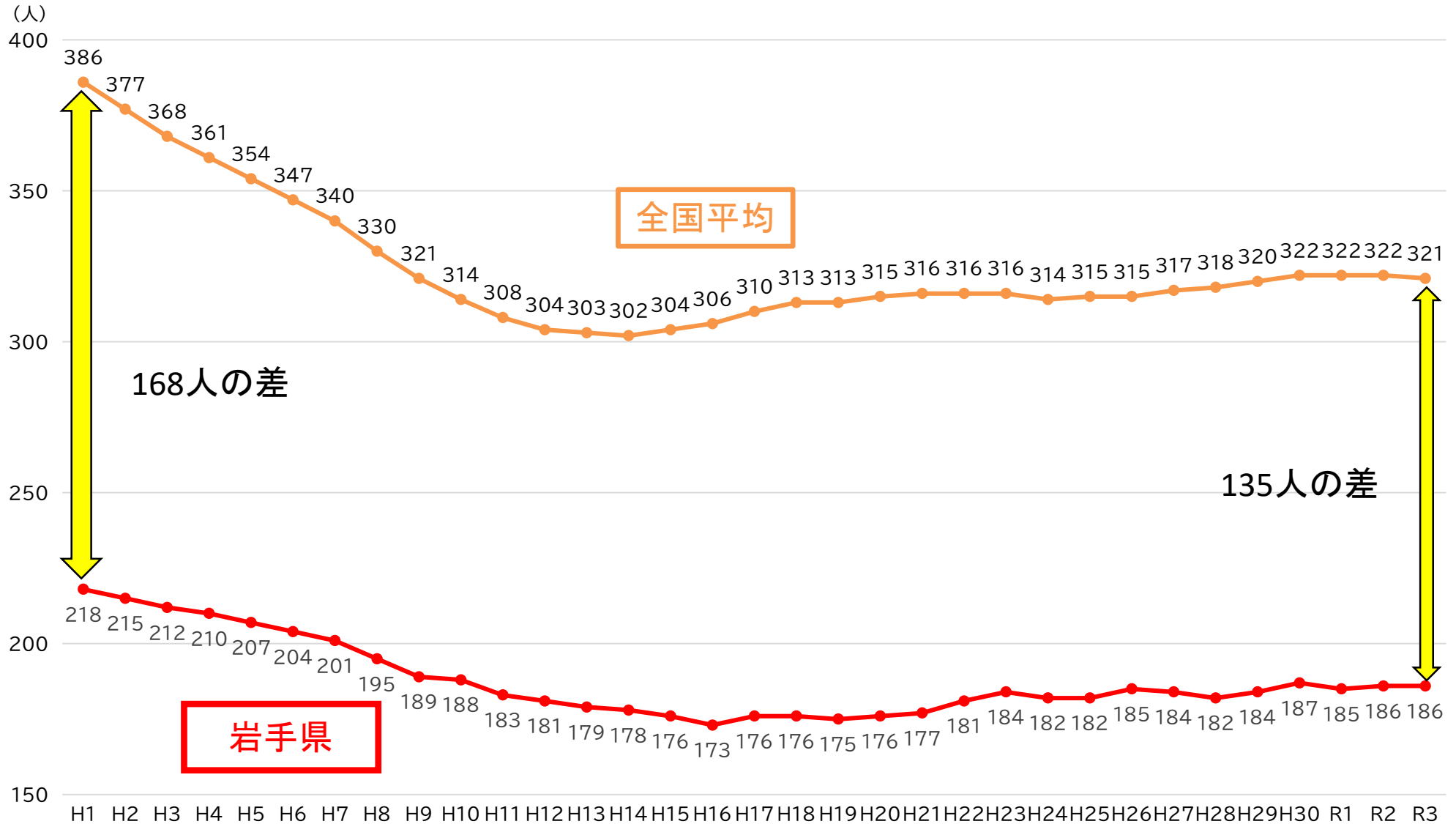
(参考資料)【小学校】公立学校数の推移②

○公立小学校の減少率(H1比)について、令和2年度国勢調査の人口減少率が高い都道府県(上位5位)で比較すると、本県の減少率(55.8)が3番目に高くなっている。(本県減少率:全国3位)
 ○本県より減少率が高いのは、青森県(52.1)、秋田県(52.8)となっている。



(参考資料)【小学校】1学校あたり生徒数の推移(公立)

○本県の小学校(公立)における1学校あたり児童数は、令和3年において186人となっている。
 ○全国平均との差は、概ね横ばいで推移している。



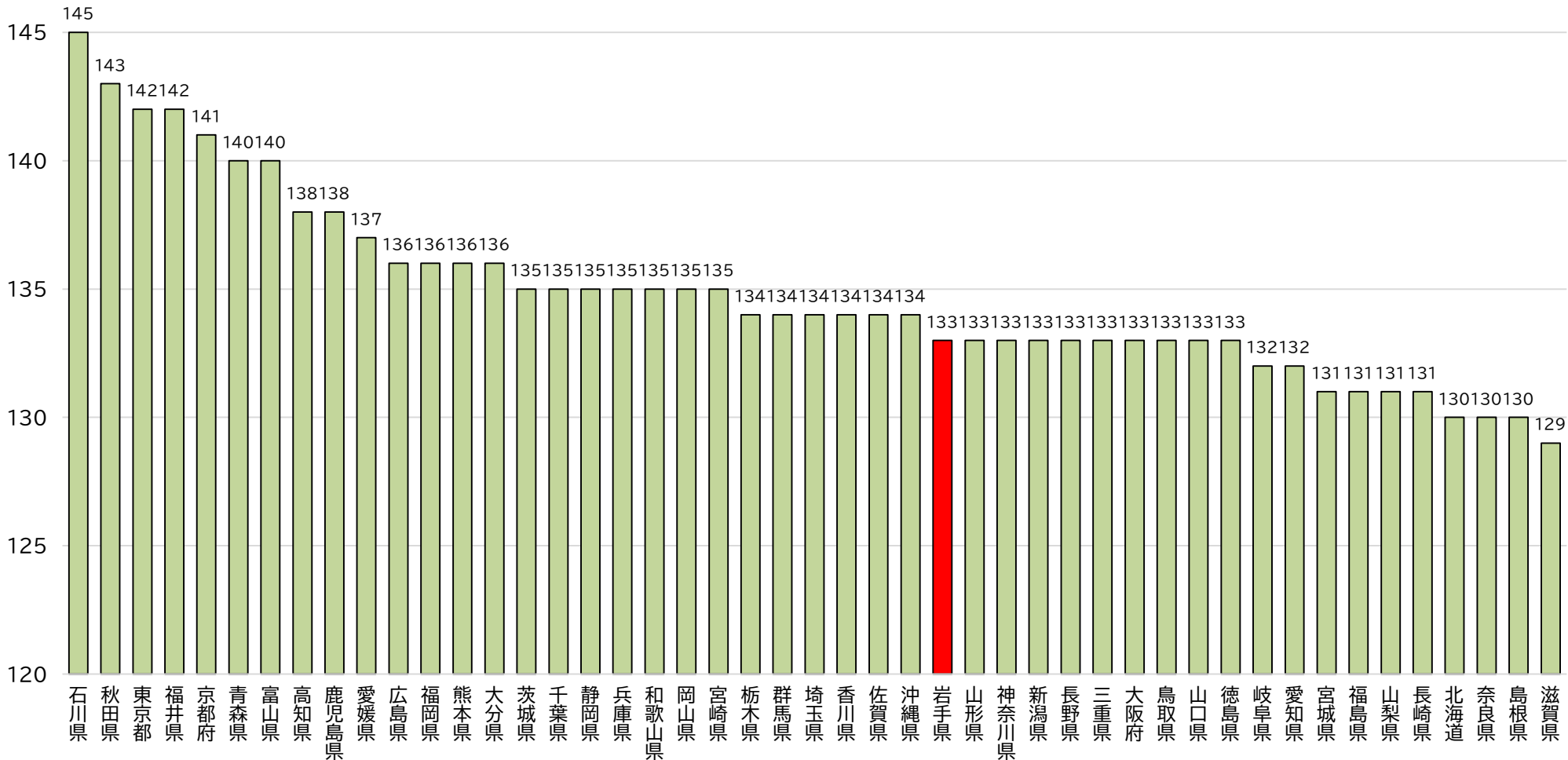
・ 出典: 学校基本調査(文部科学省)より作成

(参考資料)【小学校】全国学力・学習状況調査結果(都道府県比較)

○令和3年度全国学力・学習状況調査(小学校第6学年)においては、本県は全国28位となっており、全国中位である。

(点)

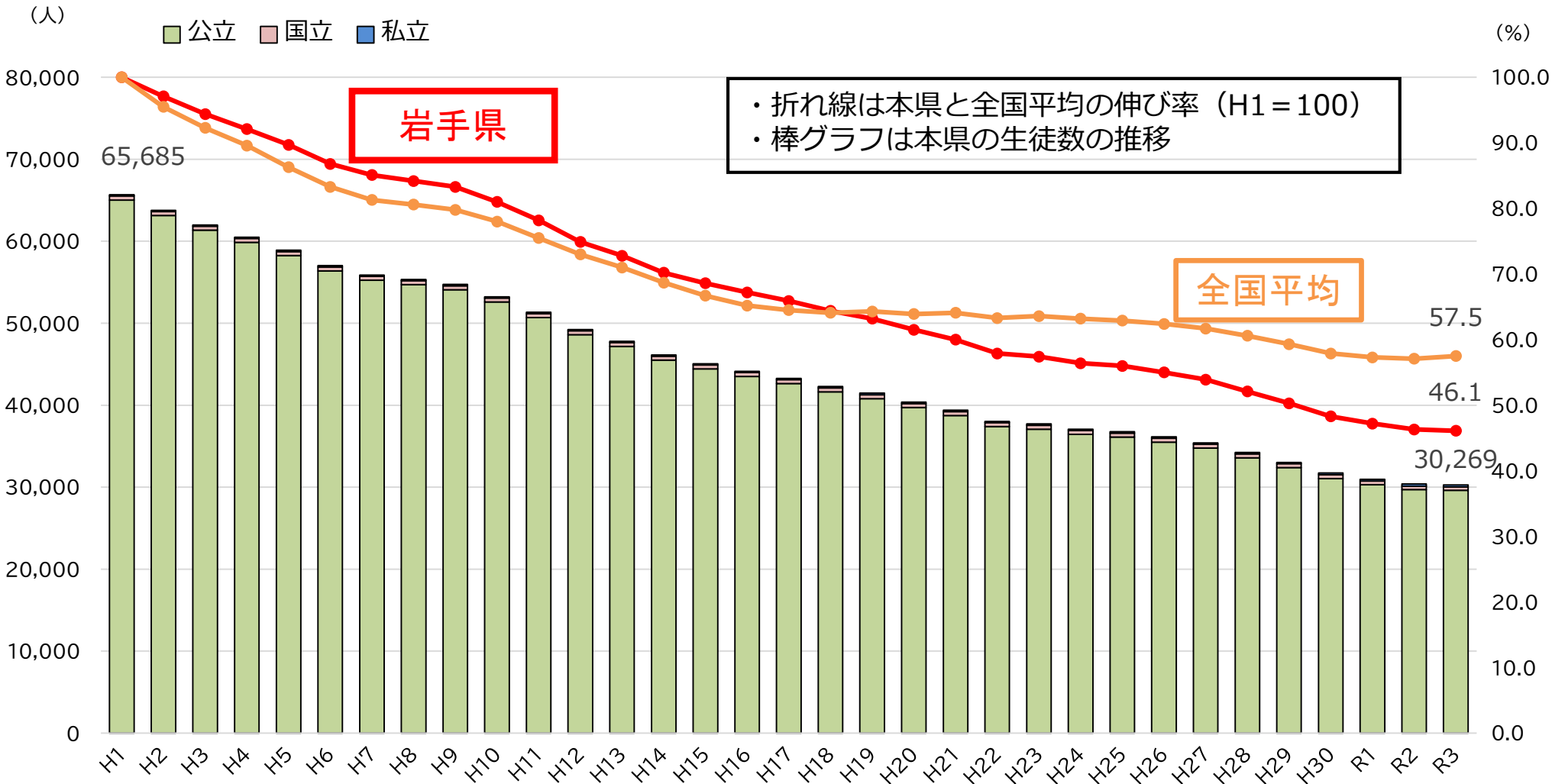
150



・ 出典: 令和3年度全国学力状況調査【小学校】調査実施概況より、ダイヤモンド社作成

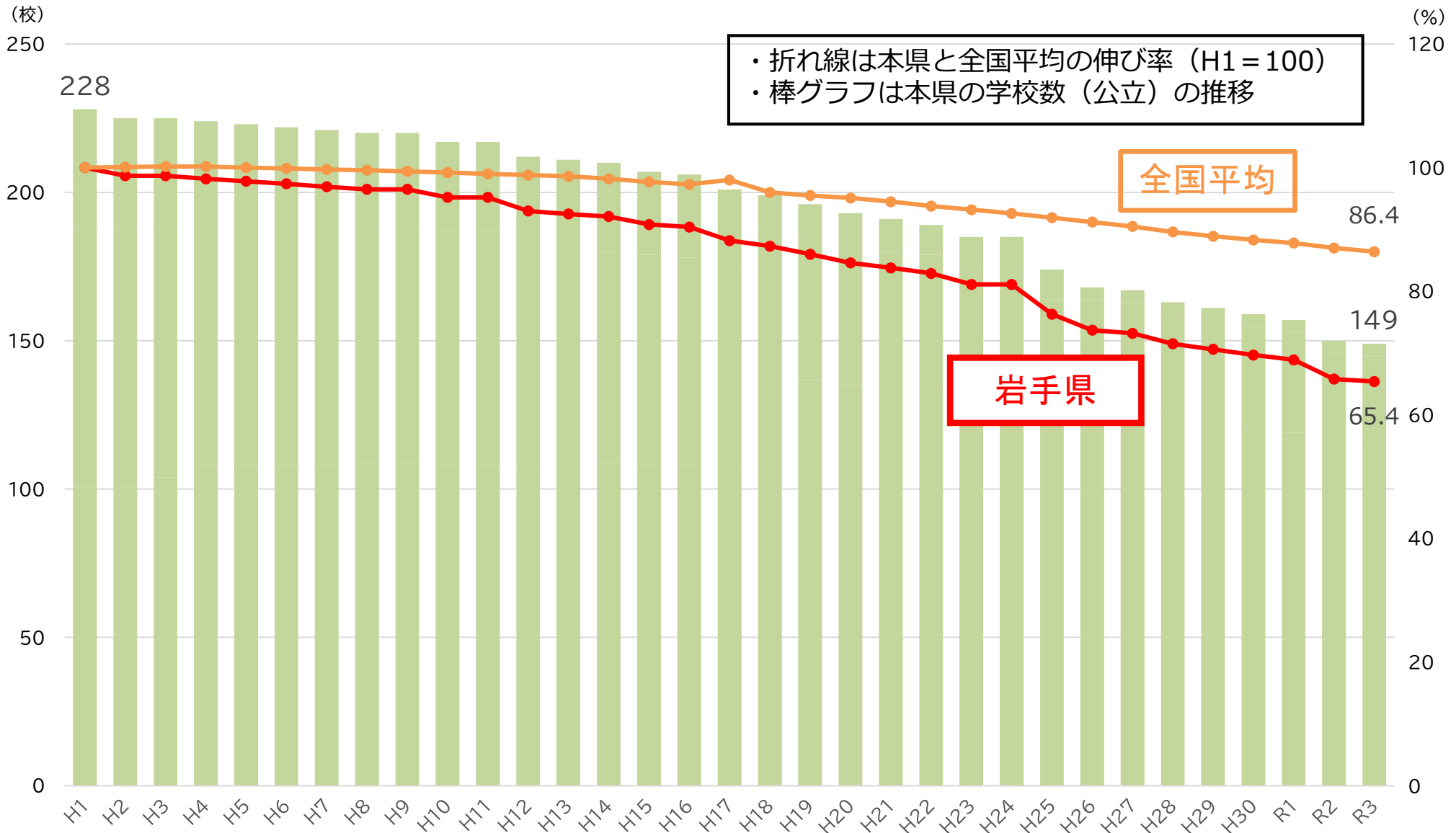
(参考資料)【中学校】生徒数の推移

○本県の中学校の生徒数は、令和3年度において30,269人(公立:29,606人、国立:416人、私立:247人)となっている。平成元年と比較すると、▲35,416人減少しており、半分以下となっている、
 ○平成元年と比較した減少率は、全国平均と比較して、本県の方が大きい。(R3 全国:57.5、岩手県:46.1)



(参考資料)【中学校】公立学校数の推移①

○市町村立の中学校は、令和3年度において149校となっている。平成元年と比較すると、▲79校減少している。
 ○平成元年と比較した減少率は、全国平均と比較して、本県の方が大きい。(R3 全国:86.4、岩手県:65.4)

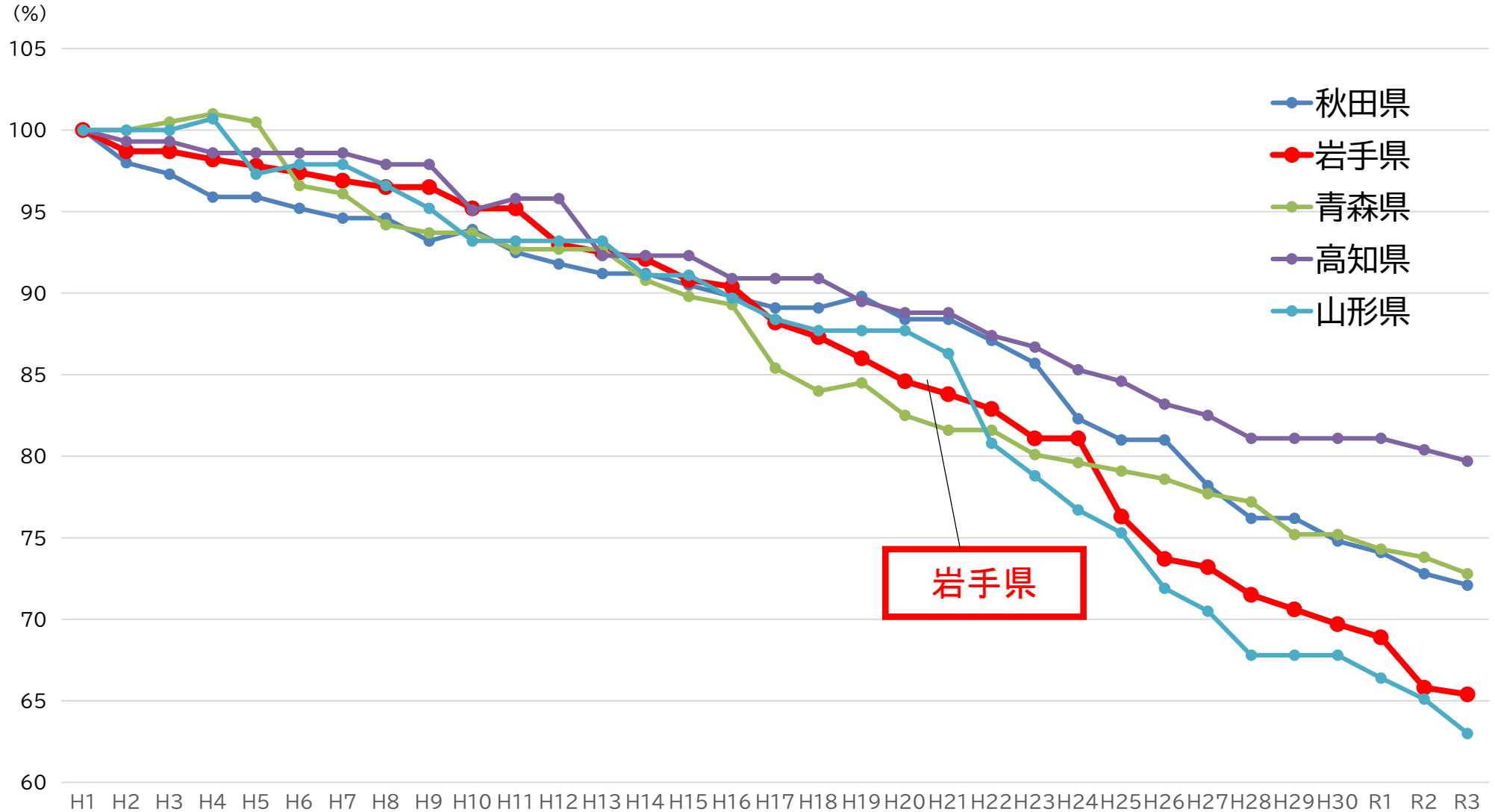


・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

(参考資料)【中学校】公立学校数の推移②

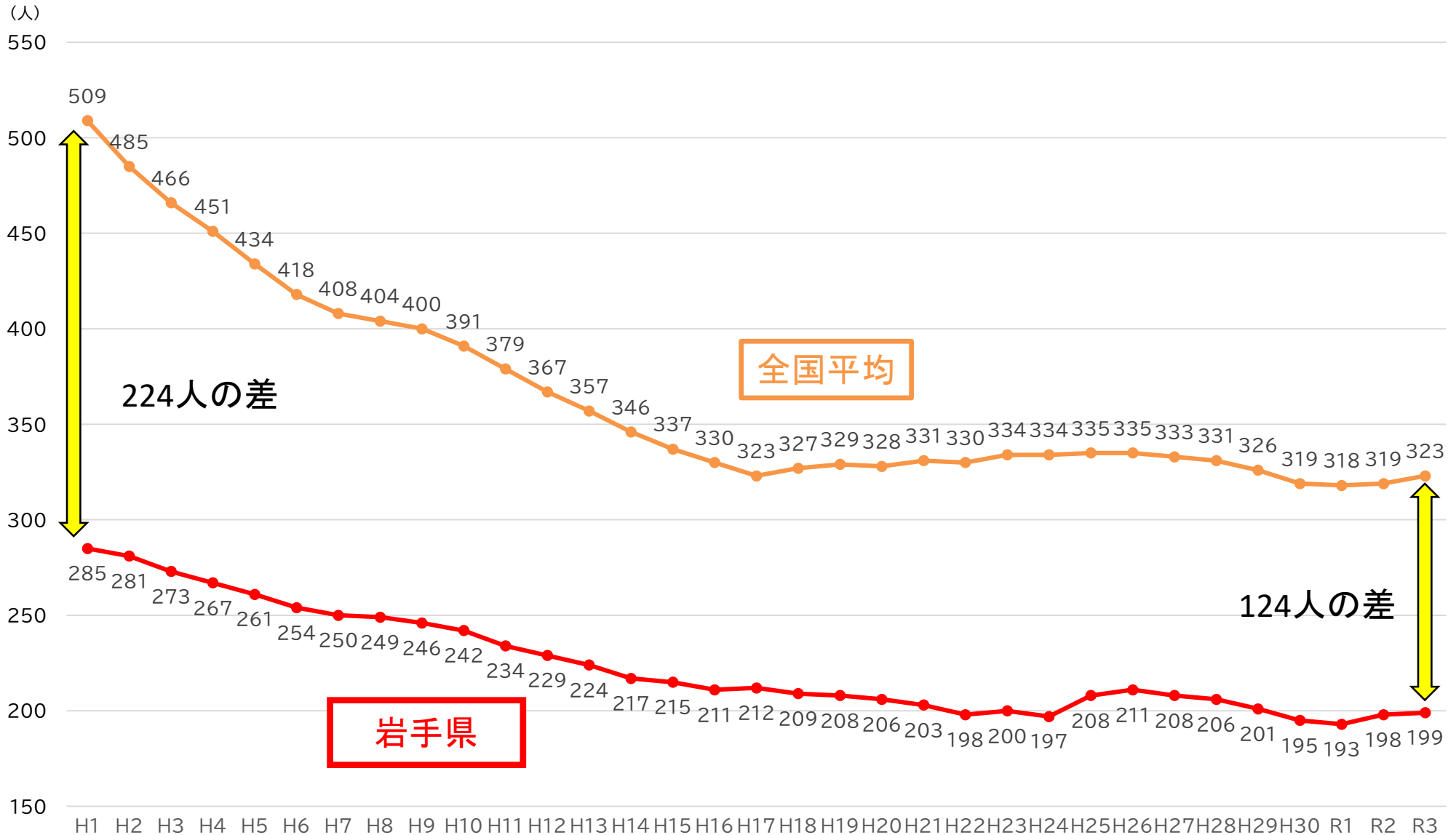
○公立中学校の減少率(H1比)について、令和2年度国勢調査の人口減少率が高い都道府県(上位5位)で比較すると、本県の減少率(65.4)が2番目に高くなっている。(本県減少率:全国2位)

○本県より減少率が高いのは、山形県(63.0)のみとなっている。



(参考資料)【中学校】1学校あたり生徒数の推移(公立)

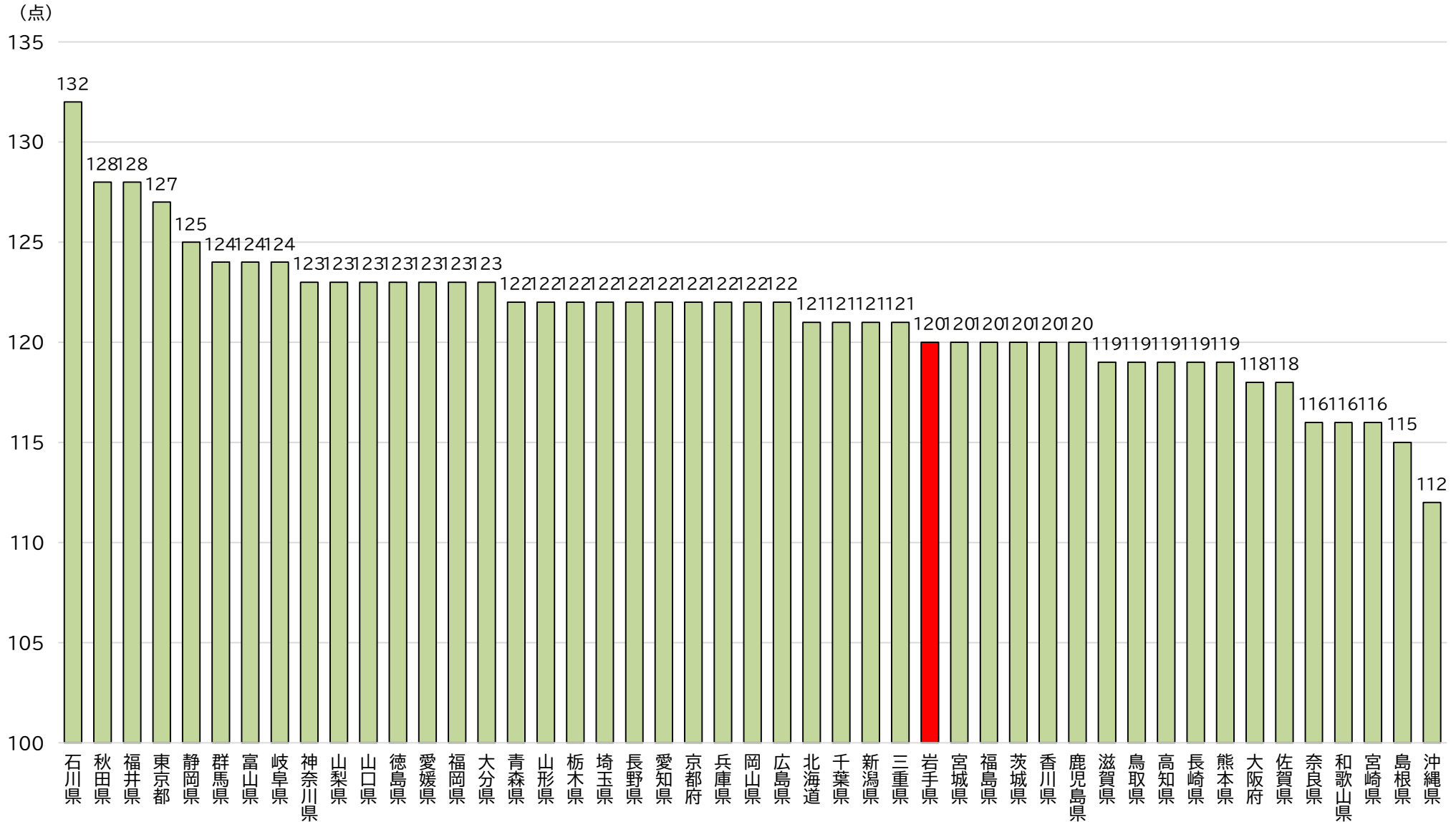
○本県の中学校(公立)における1学校あたり生徒数は、令和3年において199人となっている。
 ○全国平均との差は、平成17年頃までは縮小傾向であったが、その後は、横ばいで推移している。



・ 出典:学校基本調査(文部科学省)より作成

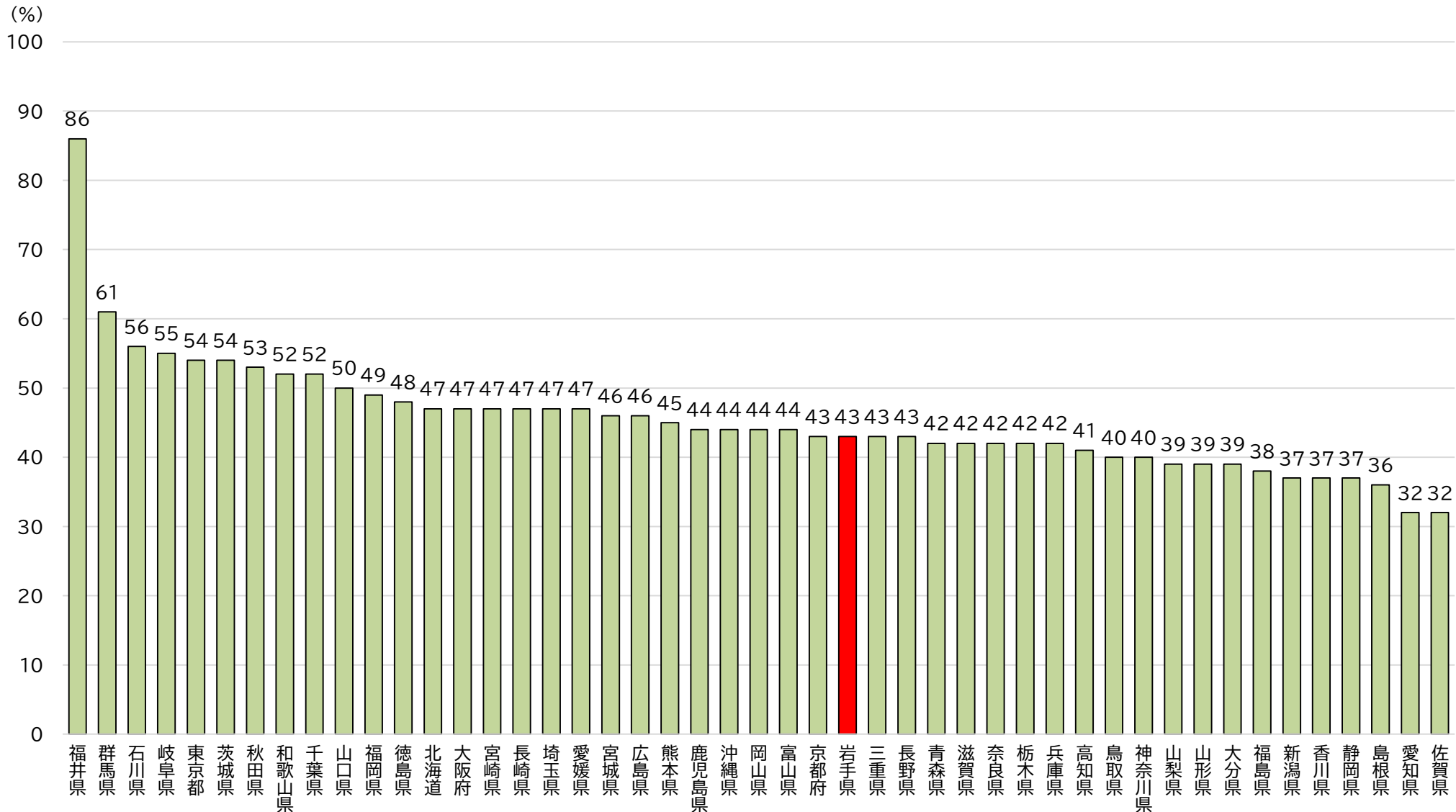
(参考資料)【中学校】全国学力・学習状況調査結果(都道府県比較)

○令和3年度全国学力・学習状況調査(中学校第3学年)においては、本県は全国30位となっており、全国中位である。



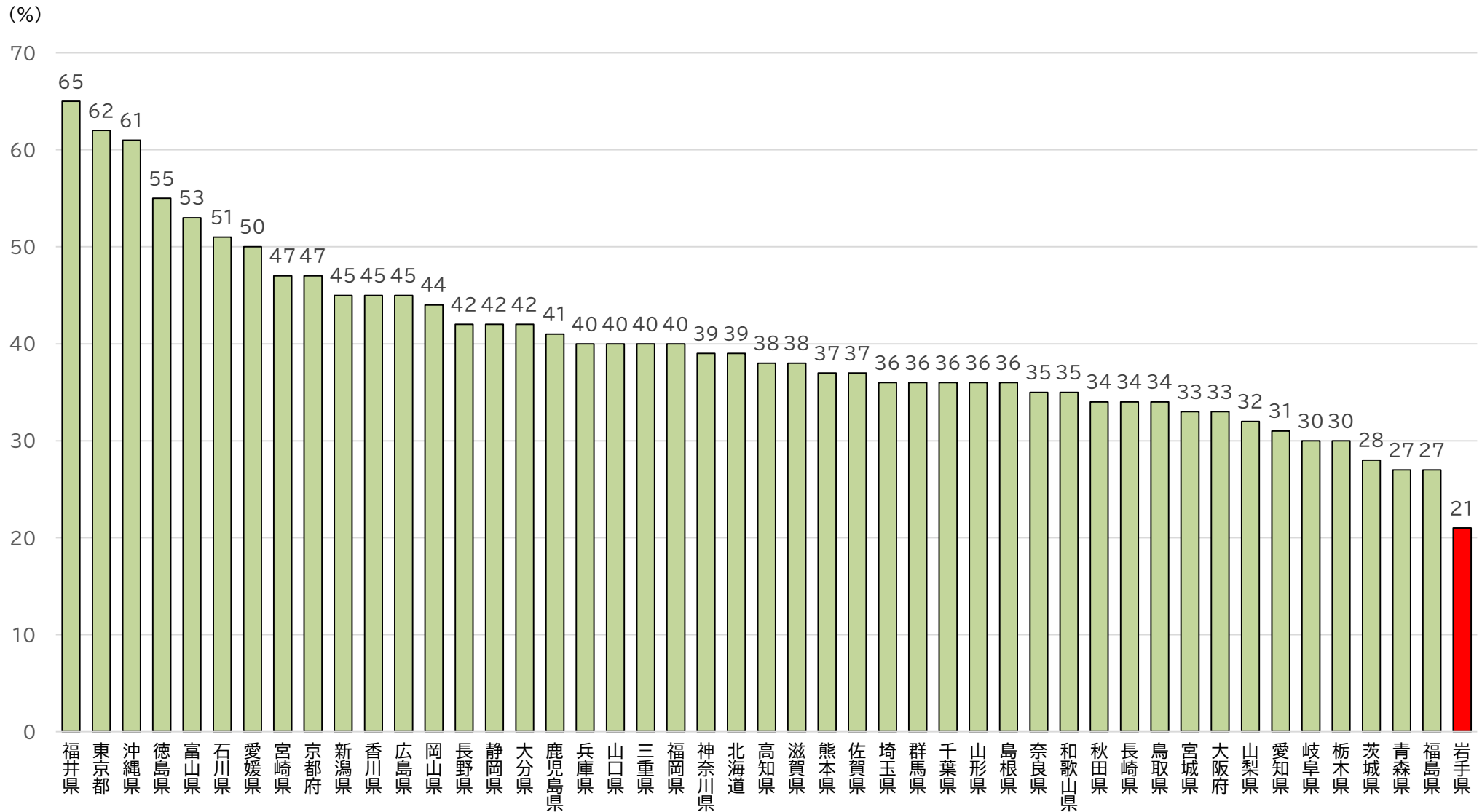
(参考資料)【中学校】生徒の英語力の状況

○令和3年度の公立中学校における英語教育実施状況調査のCEFR A1レベル相当(英検3級～5級程度)以上を取得又は、能力を有すると思われる生徒(中学校第3学年)の割合は43%となっており、全国中位(全国27位)となっている。



(参考資料)【中学校】先生の英語力の状況

○令和3年度の公立中学校における英語教育実施状況調査のCEFR B2レベル相当(英検準1級程度)以上を取得している先生の割合は21%となっており、全国最下位(全国47位)となっている。



(参考資料) ブロック別の設置状況

学区と高等学校の配置に関する地区割(R2)

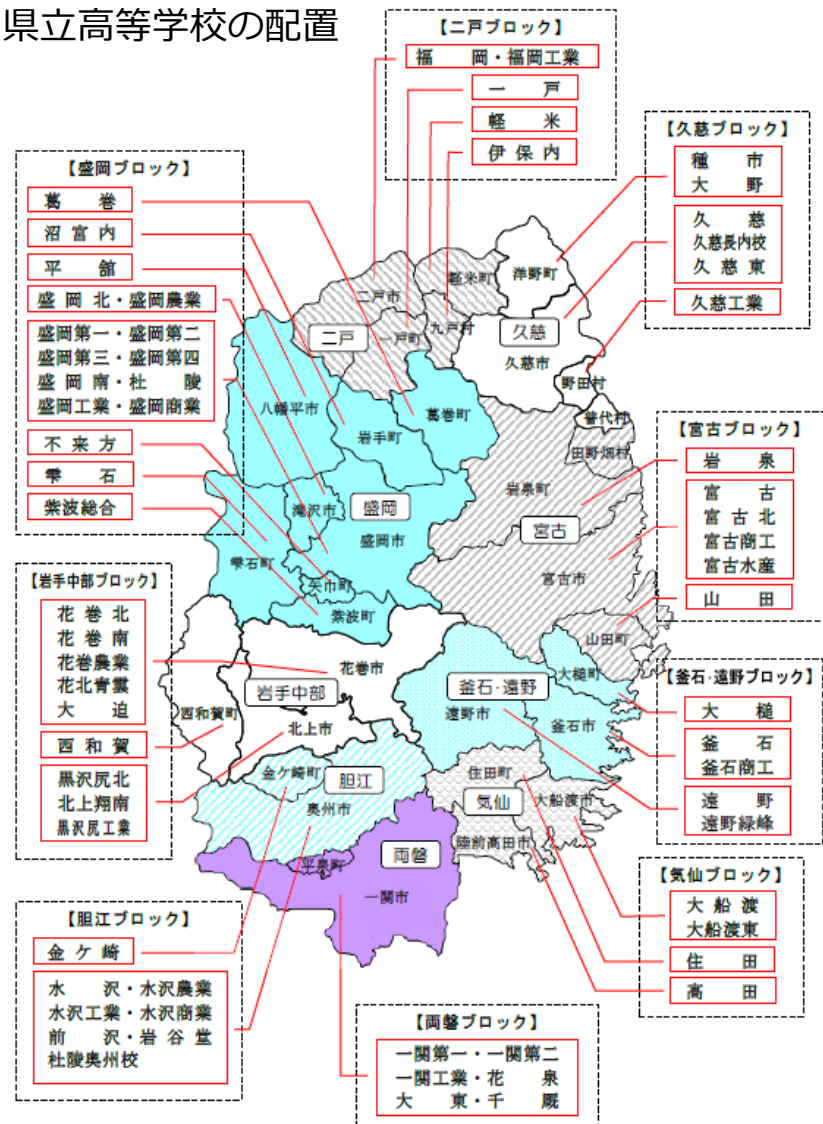
○普通科に適用する通学区域については、8学区を定めている。

○県立高校の配置について、通学距離等を考慮して、8学区を基にした9つのブロック単位で考えている。

■学区と高等学校の配置に関する地区割

学区	ブロック	ブロック内市町村	ブロック内の高等学校(令和2年度)			
盛岡	盛岡	盛岡市	盛岡第一	盛岡第二	盛岡第三	盛岡第四
			盛岡南	杜陵(定・通)	盛岡工業(全・定)	盛岡商業
			盛岡市立			
			岩手	岩手女子	盛岡白百合	江南義塾盛岡
			盛岡誠桜	盛岡大学附属	盛岡スコール	盛岡中央(全・通)
		八幡平市	平館			
		滝沢市	盛岡北	盛岡農業		
		雫石町	雫石			
		葛巻町	葛巻			
		岩手町	沼宮内			
紫波町	紫波総合					
矢巾町	不来方					
岩手中部	岩手中部	花巻市	花巻北	花巻南	花巻農業	花北青雲
			大迫	花巻東		
		北上市	黒沢尻北	北上翔南	黒沢尻工業	専修大学北上
西和賀町	西和賀					
胆江	胆江	奥州市	水沢	水沢農業	水沢工業	水沢商業
			前沢	岩谷堂	杜陵奥州校(定・通)	水沢第一
金ケ崎町	金ケ崎					
両磐	両磐	一関市	一関第一(全・定)	一関第二	一関工業	花泉
			大東	千厩	一関学院(全・通)	一関修紅
気仙・釜石	気仙	大船渡市	大船渡(全・定)	大船渡東		
			陸前高田市	高田		
		住田町	住田			
		釜石市	釜石(全・定)	釜石商工		
		遠野市	遠野	遠野緑峰		
大槌町	大槌					
宮古	宮古	宮古市	宮古(全・定・通)	宮古北	宮古商工	宮古水産
		山田町	山田			
		岩泉町	岩泉			
		田野畑村				
久慈	久慈	久慈市	久慈	久慈長内校(定)	久慈東	
		洋野町	種市	大野		
		野田村	久慈工業			
		普代村				
二戸	二戸	二戸市	福岡(全・定)	福岡工業		
		軽米町	軽米			
		一戸町	一戸			
		九戸村	伊保内			

■県立高等学校の配置



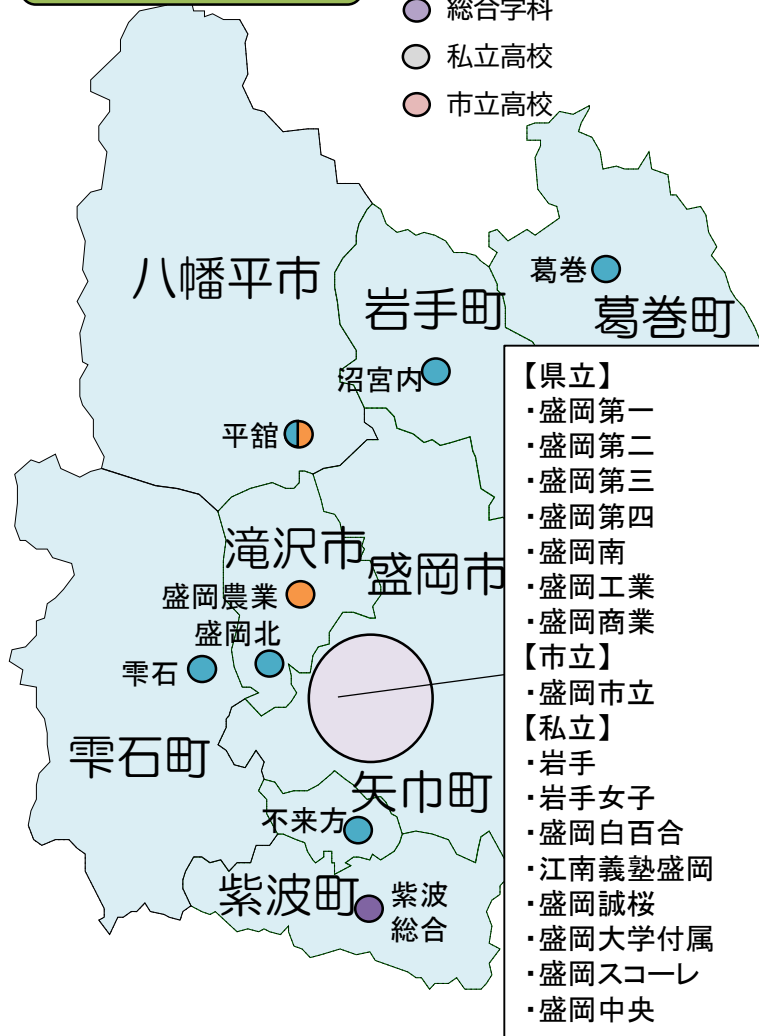
盛岡ブロック

○全日制課程については、県立高校は普通高校11校注、専門高校3校、総合学科高校1校の計15校を設置。また、盛岡市立高校と私立高校が8校。
 ○令和2年度入試において、全日制課程では258人の欠員が生じており、さらに中学校卒業予定者数は、令和2年3月から令和7年3月までの間に約190人の減少が見込まれる。

【高等学校の設置状況】注)普通高校に専門学科併置校を含む場合がある。次ページ以降も同じ。

盛岡ブロック

- 普通高校
- 専門高校
- 総合学科
- 私立高校
- 市立高校



学校名	前期計画 R2時点			後期計画 R7時点	
	学科・学級数	定員	欠員状況	学科・学級数	定員
盛岡第一	普通6 理数1	280	+3	普通6 理数1	280
盛岡第二	普通5	200	+5	普通5	200
盛岡第三	普通7	280	+7	普通7	280
盛岡第四	普通6	240	+6	普通6	240
盛岡北	普通5	200	+0	普通5	200
盛岡南	普通5 体育1	240	+1	普通など8 (R7統合)	320
不来方	普通7	280	▲2		
盛岡農業	農業5	200	▲47	農業5	200
盛岡工業	工業7	280	▲53	工業7	280
盛岡商業	商業6	240	+5	商業6	240
沼宮内	普通2	80	▲38	普通2	80
葛巻	普通2	80	▲31	普通2	80
平館	普通1 家庭1	80	▲27	普通1 家庭1	80
雫石	普通1	40	▲18	普通1	40
紫波総合	総合4	160	▲69	総合4	160
合計	72学級	2,880	▲258	67学級	2,680

学校名	前期計画 R2時点	
	学科・学級数	定員
盛岡市立	普通 商業	284
岩手	普通	128
岩手女子	普通 看護 福祉教養	114
盛岡白百合	普通	123
江南義塾盛岡	普通 情報処理	101
盛岡誠桜	普通	251
盛岡大学付属	普通	172
盛岡スコール	総合	143
盛岡中央	普通	343
県立以外計		1,659

※市・私立高校は学科のみを記載。また、定員は第1学年の生徒数を記載

岩手中部ブロック

○全日制課程については、県立高校は普通高校5校、専門高校3校、総合学科高校1校の計9校を設置。また、私立高校が2校。
 ○令和2年度入試において、全日制課程では171人の欠員が生じており、さらに中学校卒業予定者数は、令和2年3月から令和7年3月までの間に約160人の減少が見込まれる。

【高等学校の設置状況】

岩手中部ブロック



- 普通高校
- 専門高校
- 総合学科
- 私立高校

学校名	前期計画 R2時点			後期計画 R7時点		再編の方向	
	学科・学級数	定員	欠員状況	学科・学級数	定員	増減	内容
花巻北	普通6	240	▲16	普通6	240		
花巻南	普通5	200	▲2	普通5	200		
花巻農業	農業3	120	▲36	農業3	120		
花北青雲	工業1 商業2 家庭1	160	▲5	工業1 商業2 家庭1	160		
大迫	普通1	40	▲13	普通1	40		
黒沢尻北	普通6	240	+1	普通6	240		
北上翔南	総合5	200	▲29	総合5	200		
黒沢尻工業	工業6	240	▲61	工業6	240		
西和賀	普通1	40	▲10	普通1	40		
県立計	37学級	1,480	▲171	37学級	1,480		
専修大学 北上	普通 商業 自動車	257					
花巻東	普通	273					
県立以外計	14学級	530					

※私立高校は学科のみを記載。また、定員は第1学年の生徒数を記載

胆江ブロック

○全日制課程については、県立高校は普通高校3校、専門高校3校、総合学科高校1校の計7校を設置。また、私立高校が1校。
 ○令和2年度入試において、全日制課程では193人の欠員が生じており、さらに中学校卒業予定者数は令和2年3月から令和7年3月までの間に約160人の減少が見込まれる。

胆江ブロック

【高等学校の設置状況】

学校名	前期計画 R2時点			後期計画 R7時点		再編の方向	
	学科・学級数	定員	欠員状況	学科・学級数	定員	増減	内容
水沢	普通5 理数1	240	▲18	普通5 理数1	240		
水沢農業	農業2	80	▲22	農業2	80		
水沢工業	工業4	160	▲11	工業6 (工業0)	240 (0)	+2 (▲4)*2	R7以降統合
水沢商業	商業3	120	+2	商業3	120		
前沢	普通2	80	▲30	普通2	80		
金ヶ崎	普通2	80	▲50	普通2	80		
岩谷堂	総合4	160	▲64	総合4	160		
県立計	23学級	920	▲193	25学級 (19学級)	1,000 (760)	+2 (▲4)	
水沢第一	普通調理	153					

※1私立高校は学科のみを記載。また、定員は第1学年の生徒数を記載
 ※2()の数値は、統合した学校を両磐ブロックに設置した場合の数値であること。
 (水沢工業は一関工業【両磐ブロック】と統合予定)



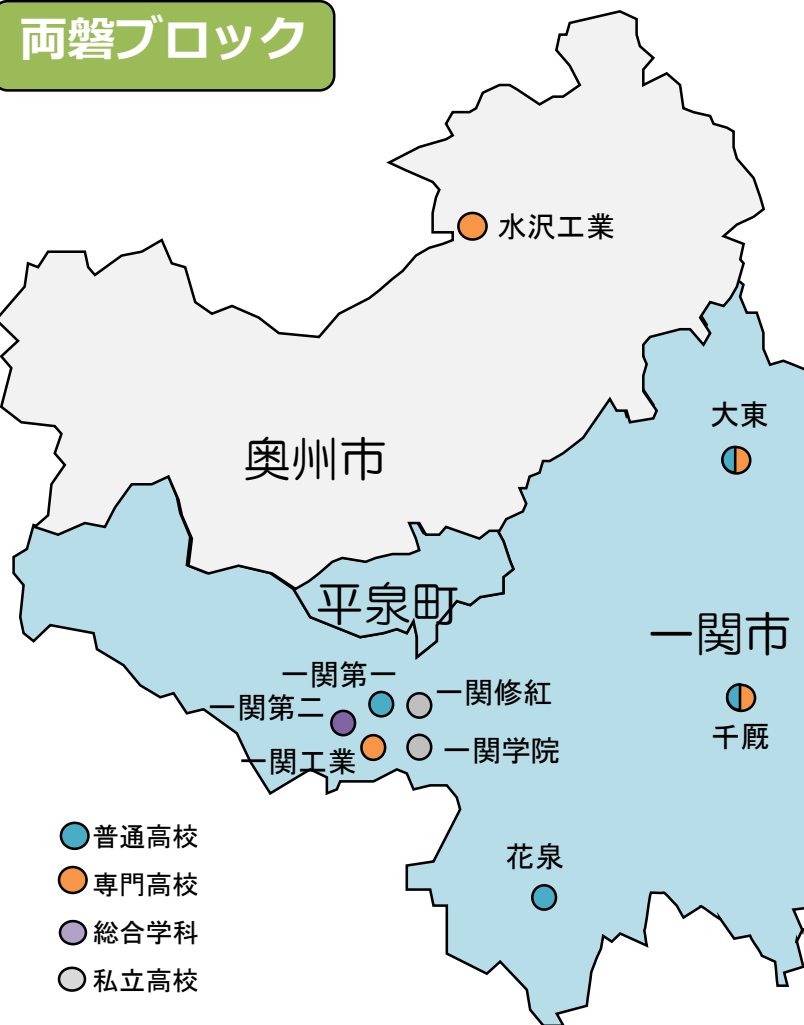
- 普通高校
- 専門高校
- 総合学科
- 私立高校

両磐ブロック

○全日制課程について、県立高校は普通高校4校、専門高校1校、総合学科高校1校の計6校を設置。また、高等専門学校1校と、私立高校2校。
 ○令和2年度入試において、全日制課程では72人の欠員が生じており、さらに中学校卒業予定者数は、令和2年3月から令和7年3月までの間に約120人の減少が見込まれる。

【高等学校の設置状況】

両磐ブロック



学校名	前期計画 R2時点			後期計画 R7時点		再編の方向	
	学科・学級数	定員 ※1	欠員状況	学科・学級数	定員	増減	内容
一関第一	普通4 理数1	200	+5	普通4 理数1	200		
一関第二	総合5	200	▲2	総合5	200		
一関工業	工業3	120	▲7	工業6 (工業0)	240 (0)	+3 (▲3)※2	R7以降統合
花泉	普通1	40	▲3	普通1	40		
大東	普通2 商業1	120	▲29	普通2 商業1	120		
千厩	普通3 農業1 工業1	200	▲36	普通3 農業1 工業1	200		
県立計	22学級	880	▲72	25学級 (19学級)	1,000 (760)	+3 (▲3)	
一関学院	普通	122					
一関修紅	普通	136					
県立以外計	8学級	258					

※1私立高校は学科のみを記載。また、定員は第1学年の生徒数を記載

※2()の数値は、統合した学校を胆江ブロックに設置した場合の数値であること。
 (一関工業は水沢工業【胆江ブロック】と統合予定)

気仙ブロック

○全日制課程について、県立高校は普通高校3校、専門高校1校の計4校を設置。
 ○令和2年度入試において、全日制課程では111人の欠員が生じており、さらに中学校卒業予定者数は、令和2年3月から令和7年3月までの間に約40人の減少が見込まれる。

【高等学校の設置状況】

学校名	前期計画：R2時点			後期計画：R7時点		再編の方向	
	学科・学級数	定員	欠員状況	学科・学級数	定員	増減	内容
高田	普通3 水産1	160	▲43	普通3 水産1	160		
大船渡	普通4	160	0	普通4	160		
大船渡東	農業1 工業1 商業1 家庭1	160	▲60	農業1 工業1 商業1 家庭1	160		
住田	普通1	40	▲8	普通1	40		
計	13学級	520	▲111	13学級	520	±0	

気仙ブロック



- 普通高校
- 専門高校
- 総合学科
- 私立高校

釜石・遠野ブロック

- 全日制課程について、県立高校は普通高校3校、専門高校2校の5校を設置。
- 令和2年度入試において、全日制課程では178人の欠員が生じており、さらに中学校卒業予定者数は令和2年3月から令和7年3月までの間に約20人の減少が見込まれる。

釜石・遠野ブロック

【高等学校の設置状況】

学校名	前期計画:R2時点			後期計画:R7時点		再編の方向	
	学科・学級数	定員	欠員状況	学科・学級数	定員	増減	内容
釜石	普通3 理数1	160	▲30	普通3 理数1	160		
釜石商工	工業2 商業1	120	▲32	工業2 商業1	120		
遠野	普通4	160	▲66	普通4	160		
遠野緑峰	農業1 商業1	80	▲23	農業1 商業1	80		
大槌	普通2	80	▲27	普通2	80		
計	15学級	600	▲178	15学級	600	±0	

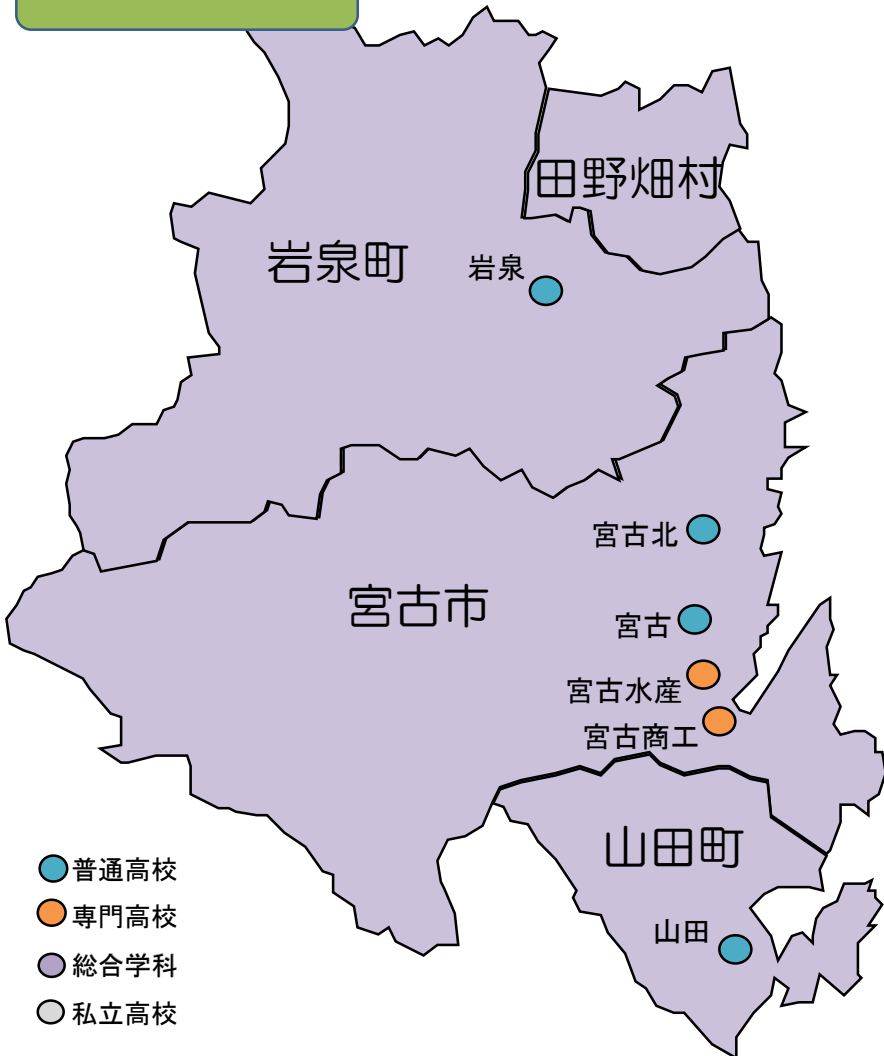


- 普通高校
- 専門高校
- 総合学科
- 私立高校

宮古ブロック

○全日制課程については、県立高校は普通高校4校、専門高校2校の計6校を設置。
 ○令和2年度入試において、全日制課程では184人の欠員が生じており、さらに中学校卒業予定者数は、令和2年3月から令和7年3月までの間に約60人の減少が見込まれる。

宮古ブロック



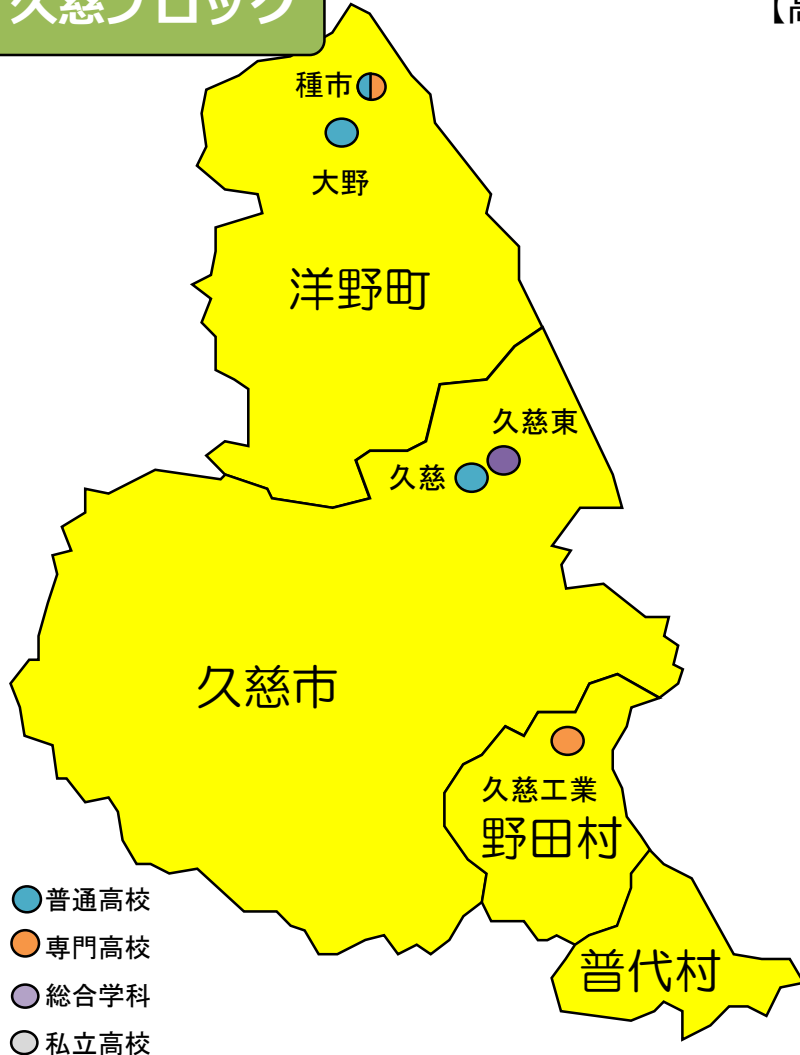
【高等学校の設置状況】

学校名	前期計画 R2時点			後期計画 R7時点		再編の方向	
	学科・学級数	定員	欠員状況	学科・学級数	定員	増減	内容
山田	普通1	40	▲9	普通1	40		
宮古	普通5	200	▲47	普通5	200		
宮古北	普通1	40	▲10	普通1	40		
宮古商工	工業2 商業3	200	▲42	工業2 商業3	200		
宮古水産	水産1 家庭1	80	▲34	水産1 家庭1	80		
岩泉	普通2	80	▲42	普通2	80		
計	16学級	640	▲184	16学級	640	±0	

久慈ブロック

○全日制課程について、県立高校は普通高校3校、専門高校1校、総合学科高校1校の計5校を設置
 ○令和2年度入試において、全日制課程では151人の欠員が生じており、さらに中学校卒業予定者数は、令和2年3月から令和7年3月までの間に約50人の減少が見込まれる。

久慈ブロック



【高等学校の設置状況】

学校名	前期計画:R2時点			後期計画:R7時点		再編の方向	
	学科・学級数	定員	欠員状況	学科・学級数	定員	増減	内容
久慈	普通4	160	+4	普通4	160		
久慈東	総合5	200	▲27	総合5	200	前期計画統合延期校(R4入試状況により、統合時期を判断)	
久慈工業	工業2	80	▲60	工業2	80		
種市	普通1 工業1	80	▲45	普通1 工業1	80		
大野	普通1	40	▲23	普通1	40		
計	14学級	560	▲151	14学級	560	±0	

二戸ブロック

○全日制課程について、県立高校は普通高校3校、専門高校1校、総合学科高校1校の計5校を設置
 ○令和2年度入試において、全日制課程では151人の欠員が生じており、さらに中学校卒業予定者数は、令和2年3月から令和7年3月までの間に約50人の減少が見込まれる。

【高等学校の設置状況】

二戸ブロック



学校名	前期計画 R2時点			後期計画 R7時点		再編の方向	
	学科・学級数	定員	欠員状況	学科・学級数	定員	増減	内容
軽米	普通2	80	▲33	普通 2	80		
伊保内	普通1	40	▲14	普通 1	40		
福岡	普通4	160	▲41	普通 4	160		
福岡工業	工業2	80	▲41	工業 1 総合 3	160	▲1	R6 統合
一戸	総合3	120	▲22				
計	12学級	480	▲151	11学級	440	▲1	